

埼玉県立文書館 令和7年度企画展

戦国乱世 の終焉 と泰平の世

展示図録

ヤ
ア
ヤ
ア
ヤ
ア
ヤ
ア

豊臣軍がやってきた！



戦国乱世の終焉と泰平の世

— 豊臣軍がやってきた！ヤアヤアヤア！！！！！ —

開催概要

埼玉県立文書館 令和7年度企画展

戦国乱世の終焉と泰平の世

—豊臣軍がやってきた！ヤアヤアヤア！—

会期：令和8年(2026)1月31日(土)～4月26日(日)

会場：埼玉県立文書館 展示室

主催：埼玉県立文書館

いあいさつ

天正18年(1590)、関東に権勢を誇った小田原北条氏は、豊臣秀吉の攻撃を受けて滅亡しました。小田原落城後、徳川家康の江戸入城によって関東は新たな時代を迎えます。

本展覧会では、戦国時代末から江戸時代初期の埼玉県地域を取り巻く情勢を収蔵資料から紹介します。

今年は各地で豊臣秀吉に関わる展覧会が予定されています。当館の企画展は、ほぼ収蔵資料によって構成されています。本展覧会には有名な肖像画も、鎧や兜もありません。限られた収蔵資料から、中近世移行期の埼玉県地域の状況を読み解き、それを日本史の中で相対化することを本展覧会の目的とします。

なお、今回の展示資料は、会期終了後、2階閲覧室で皆様にご覧いただけます。本展覧会が、皆様にとって地域の史資料に触れるきっかけとなることを願っています。

令和8年1月31日

埼玉県立文書館

戦国乱世の終焉と泰平の世

目次

ごあいさつ	3
目次	5
凡例	6
はじめに―信長と秀吉―	7
1. 統一政権と武蔵国	9
2. 秀吉の小田原攻め	17
3. 家康の関東入部	23
4. 江戸開幕	31
おわりに―史実と偶像―	35
特集展示 城絵図の世界	40
資料解説	45
参考文献	65
展示資料一覧	67

凡例

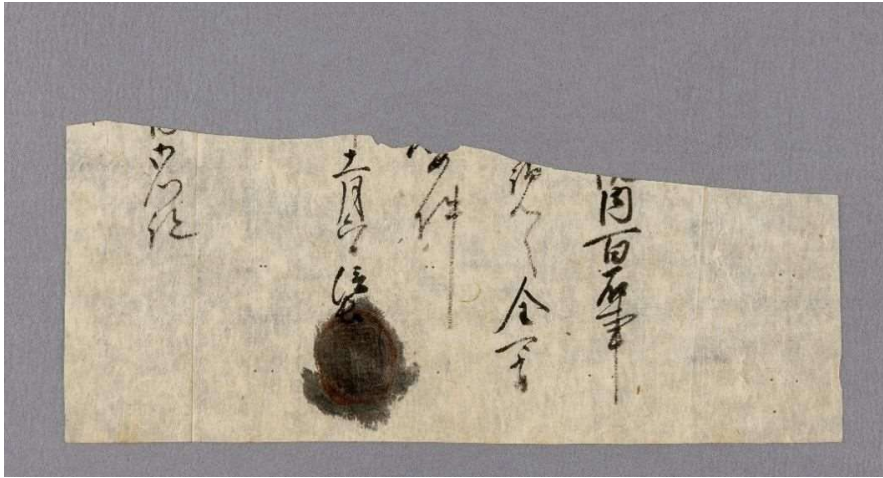
- 一 本書は令和7年(2026)1月31日から4月26日まで、埼玉県立文書館で開催される企画展「戦国乱世の終焉と泰平の世―豊臣軍がやってきた! ヤアヤアヤア!―」の展示図録である。
 - 一 図録の資料番号は、展示番号及び展示順と必ずしも一致しない。巻末の展示資料一覧に図録資料番号を付記した。また、展示スペースの都合上、展示できなかった資料の一部を【参考】として収録した。
 - 一 会期中に一部展示替えを行うため、図録に掲載した資料が会場に展示していない場合がある。
 - 一 資料名称の頭に付した記号は、◎埼玉県指定文化財、○市町村指定文化財を示す。
 - 一 資料名称・年代等は、近年の研究動向等を踏まえ修正したため、当館の収蔵資料検索システム搭載の目録と異なる場合がある。
 - 一 資料解説の表記は、資料番号、指定状況、文書名、文書群名、員数、形状、作成年代の順に記した。
 - 一 年代については、原則的に資料中の表記を用いている。
 - 一 資料に応じて釈文を付した。その際に、表記は原則として常用漢字に統一し、適宜句点・並列点・改行を付した。
 - 一 豊臣秀吉の実名は、年代によって木下藤吉郎、羽柴秀吉、豊臣秀吉と変遷するが、本書においては混乱を避けるため「豊臣秀吉」で統一した。他の人物についても同様とした。
 - 一 本展覧会は、青木裕美(当館学芸員)が企画・計画し、伊藤由佳(同)が補佐した。本図録の企画・編集は青木裕美が担当した。展示パネル・キャプション及び本書の資料解説の執筆分担は次の通りである。
- はじめ―信長と秀吉―/1. 統一政権と武蔵国 / 2. 秀吉の小田原攻め /
- 3. 家康の関東入部 / おわりに―史実と偶像―
 - 青木 裕美
 - 4. 江戸開幕
 - 伊藤 由佳
- 特集展示 城絵図の世界
- 村田 駿 (令和7年度当館学芸員)

はじめに

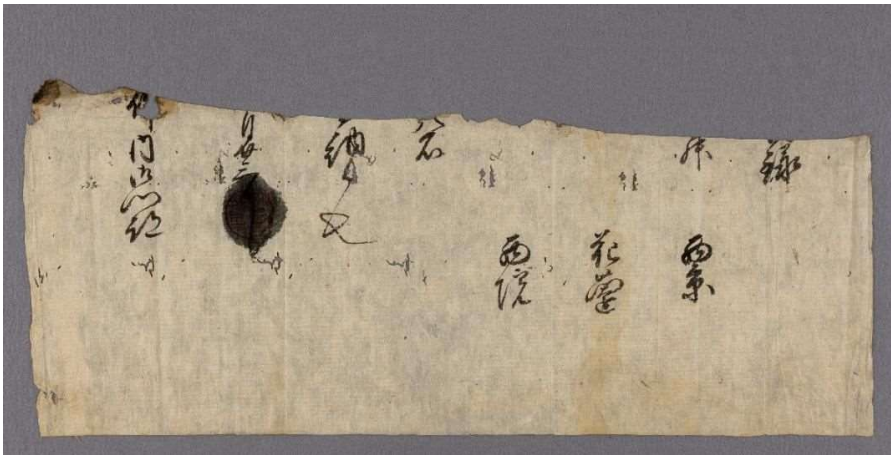
— 信長と秀吉 —

戦国大名が割拠し、国衆らが戦乱をくり広げた戦国時代後期において、天下統一の途を進む織田信長の勢力は、武蔵国を含む関東にも及びました。この統一事業は、信長の死後、豊臣秀吉に引き継がれることとなります。

本展覧会の導入として、西角井家文書の諸国寺社朱印状のうち、同じ寺院（山城国愛宕郡曼殊院）に宛てられた信長と秀吉の発給文書を紹介します。



1. 「天下布武」が見える…かなあ？
○織田信長朱印状(断簡)
〔西角井家文書 6438〕

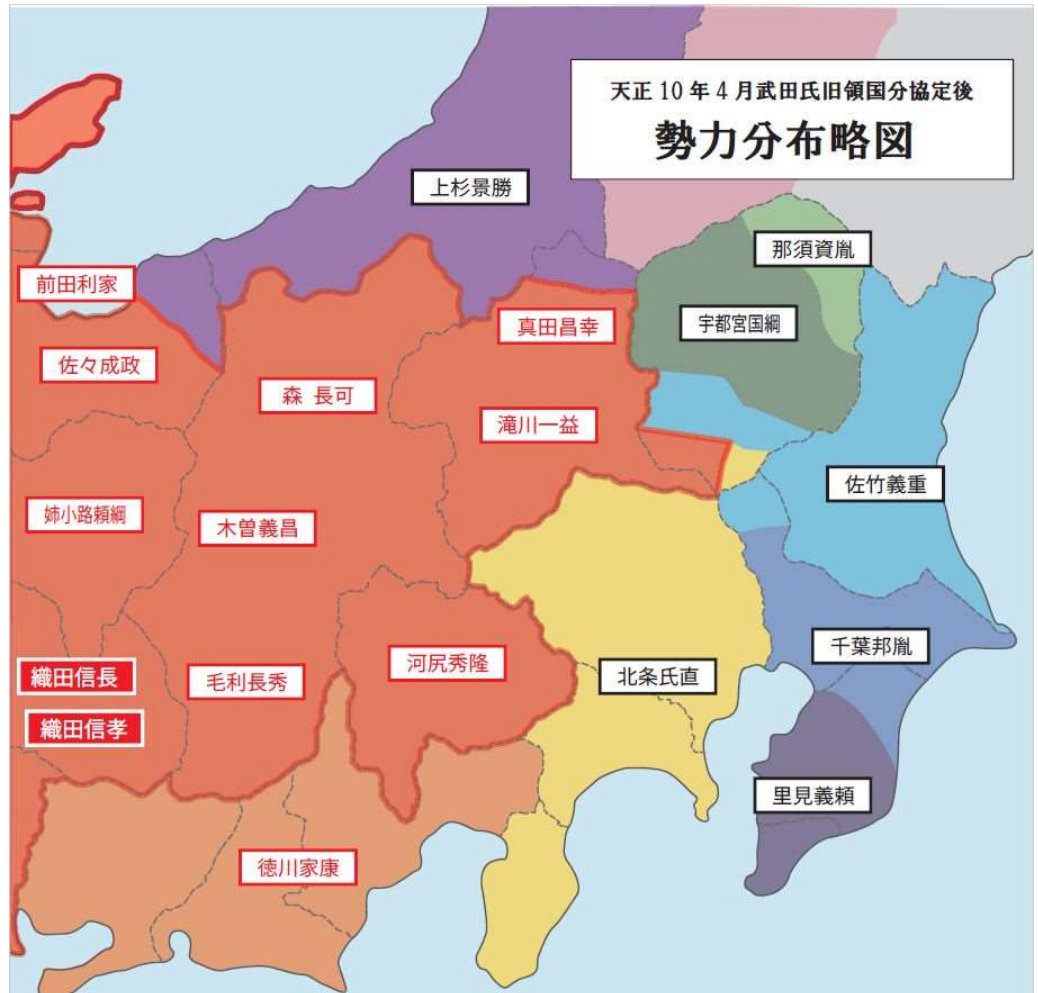


2. 大高檀紙って大きいよね
○豊臣秀吉朱印状(断簡)
〔西角井家文書 6439〕

第一章

統一政権と武蔵国

天正10年(1582)、織田信長によって甲斐武田氏が滅亡します。これに伴い、武田氏旧領の国分協定が行われました。武蔵国は小田原北条氏の領国として確定したものの、隣接する上野国(群馬県)、信濃国(長野県)、甲斐国(山梨県)は織田領国となり、これによって武蔵国北部は北条氏と織田氏の権力の境目となりました。この国分は、本能寺の変による信長の急逝で幕を閉じます。本章では、天下統一が進められていく情勢の中に、武蔵国の動向を位置づけます。



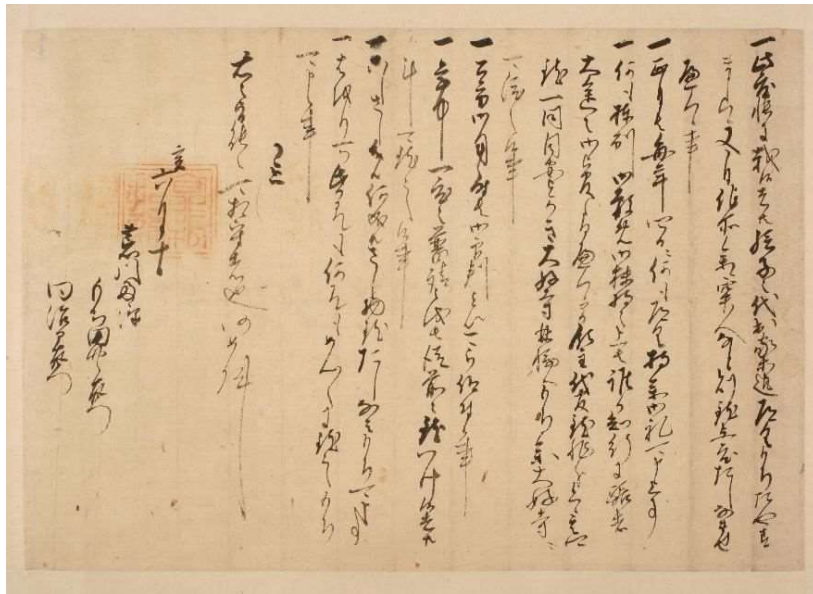
北条領国としての武蔵国

天正2年（1574）の羽生・関宿落城、同6年の上杉謙信の死を経て、小田原北条氏の武蔵国支配はより強固となり、その範囲を拡大していきます。しかし、東には北条氏に対立する佐竹・宇都宮氏ら反北条勢力が連合し、その領域を保持しようとしていました。

両勢力が激突した最大の戦いが、沼尻合戦（栃木県）です。この戦いは、反北条勢力が豊臣秀吉と、北条氏は徳川家康・織田信雄（織田信長二男）と連携し、両者が対立した小牧・長久手の戦い（愛知県）と同時に展開しました。

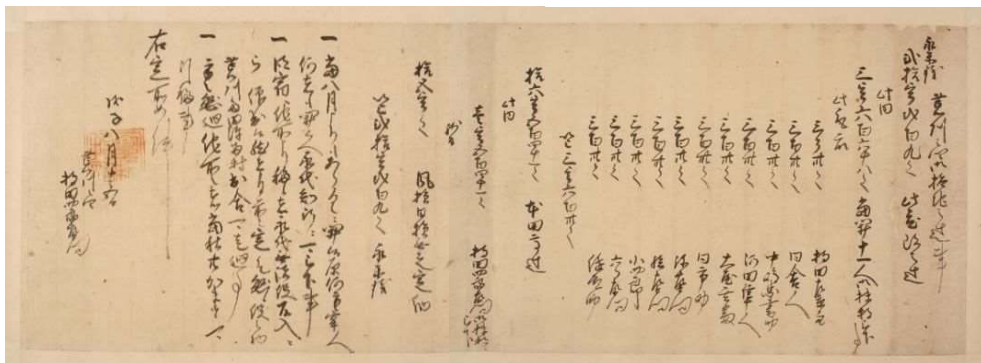
3. 半農“地域密着系”武士 ◎北条氏邦朱印状

〔持田（英家）文書5〕



4. 戦国時代の検地は自己申告制 北条氏邦検地書出

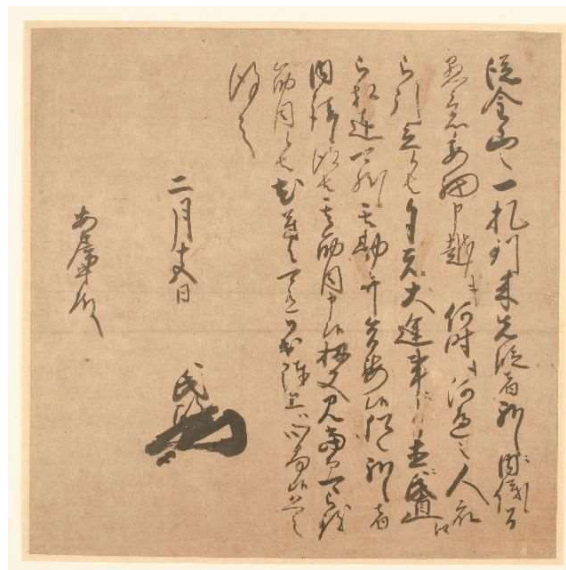
〔持田（英家）文書6〕



1. 統一政権と武蔵国

5. 北条と反北条のあいだ
北条と反北条のあいだ
5. 北条氏政書状

〔根岸浩太郎家文書3〕

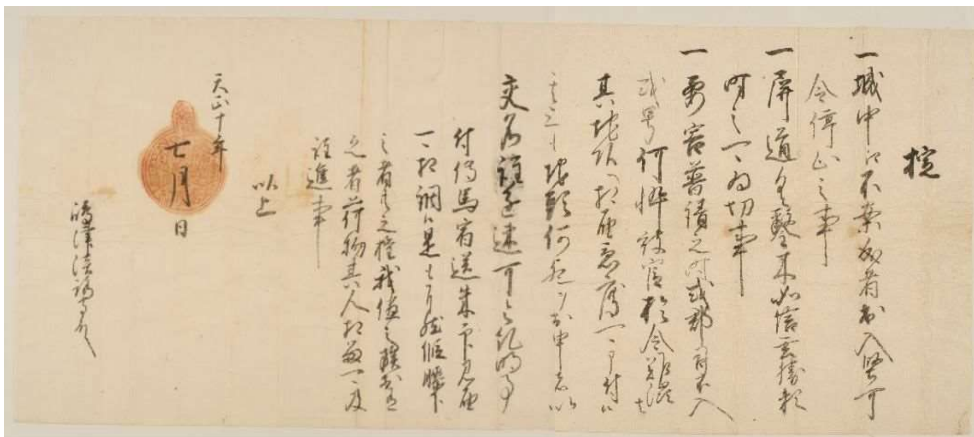


天正壬午の乱

天正10年(1582)6月2日、本能寺の変が起こると、信長急逝の報は瞬く間に関東にも広がりました。それまで織田政権の勢力を前に従属の意を示していた小田原北条氏は、真つ先に動きを見せます。旧領の回復を目指す北条氏は、同月18・19日に神流川合戦(上里町周辺)で織田家重臣瀧川一益を破ると、敗走する一益を追い、そのまま信濃国(長野県)に侵入します。そこで、武田氏旧領をめぐって、越後上杉氏や徳川氏と抗争を繰り広げることとなりました(天正壬午の乱)。

6. 長沼城で守るべきこと
6. 上杉景勝提書

〔島津家(米沢藩)上杉家家中文書27〕



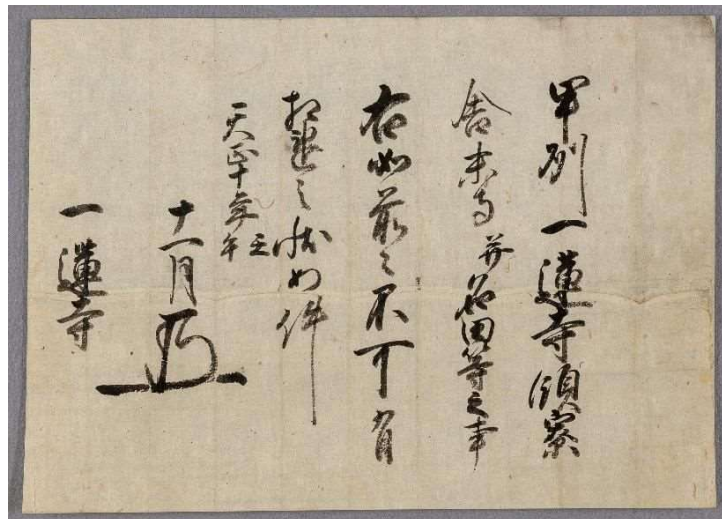
7. 北条と徳川のあいだ
北条家朱印状

〔根岸浩太郎家文書〕



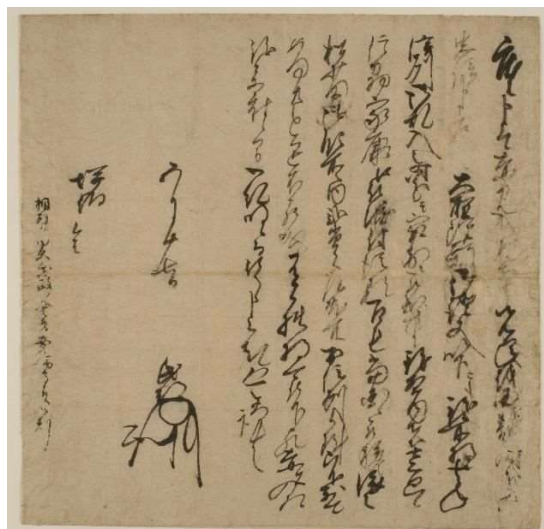
甲州、徳川領になりました
【参考1】○徳川家康判物

〔西角井家文書 6584〕



8. 赤見入道をよろしく
◎北条氏邦書状

〔小室家文書 5700〕



1. 統一政権と武蔵国

秀吉の中国・九州平定

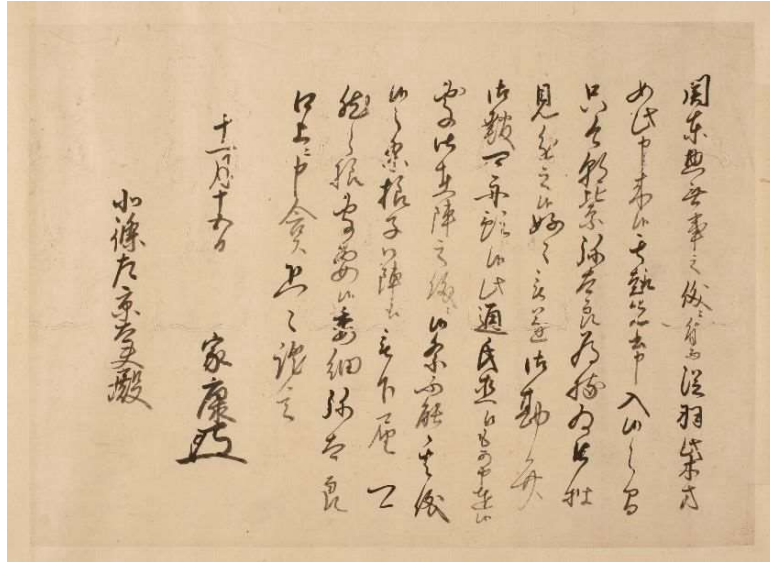
秀吉は、天正5年(1577)から信長の命を受け中国平定に当たりました。同年本能寺の変が起こると、毛利氏と和睦を結び、軍勢を京へと取って返します。明智光秀を破り、さらに信長亡き後の勢力争いに勝利したことにより、政権を確立していきます。

この頃、戦国大名の抗争下にあった九州でも、秀吉は統一戦を進めます。天正15年、島津氏の降伏により、九州国分が行われました。この在陣中に有名な伴天連追放令も発せられています。西国を平定した秀吉の眼は、関東へ向きます。

私戦を停止せよ

9. 徳川家康書状(写)

〔持田(英)家文書23〕



秀吉の中国大返し

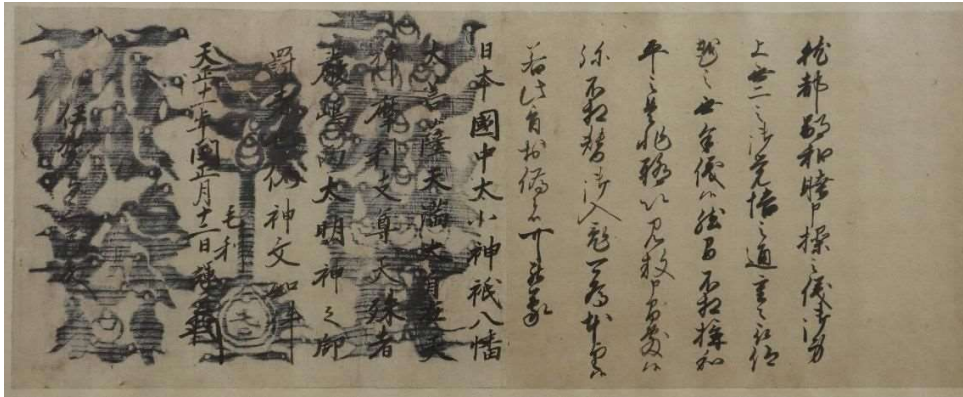
【参考2】毛利輝元・吉川元春・小早川隆景
連署起請文
〔井原家(萩藩毛利家家中)文書85-3〕



秀吉の中国大返し

【参考3】毛利輝元起請文

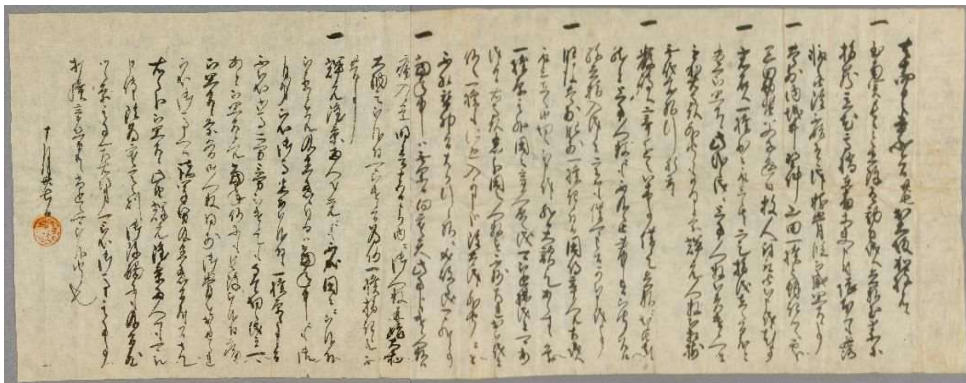
〔井原家萩藩毛利家家中〕文書85-4〕



九州平定…しきれていません

10・豊臣秀吉朱印状

〔井原家萩藩毛利家家中〕文書1〕



贈り物をありがとう

11・豊臣秀吉書状

〔根岸浩太郎家文書2〕



1. 統一政権と武蔵国

秀吉、黒船に乗って大坂凱旋?!
幕末に描かれた錦絵
12. ◎「太閤秀吉黒船大坂凱征之図」

〔小室家文書
6369
16〕



戦国乱世の終焉と泰平の世

第二章

秀吉の小田原攻め

天正18年(1590)、豊臣秀吉は北条氏の本拠小田原城(神奈川県)を攻めました。日本海側から前田利家・上杉景勝らの北方軍が碓氷峠を越えて関東に侵攻する一方、小田原城を包囲した主軍から編成された浅野長吉・木村常陸介、そして石田三成らの軍勢が武蔵国を席卷します。北条氏の支城主や国衆たちは小田原に籠城し、地元に残された一族や家臣が豊臣軍の攻撃に備えました。本章では、戦禍にさらされた武蔵国の情勢と、豊臣政権による戦後処理の様子を収蔵資料から読み解きます。

天正17年12月~天正18年8月

豊臣秀吉禁制分布図

※本地図は、国土地理院地理院地図の赤色立体地図及び淡色地図をもとに『豊臣秀吉文書集』四(名古屋市博物館編、吉川弘文館、2018)掲載の豊臣秀吉禁制のうち、発給先が推定できる221件の位置を●で示したものです。



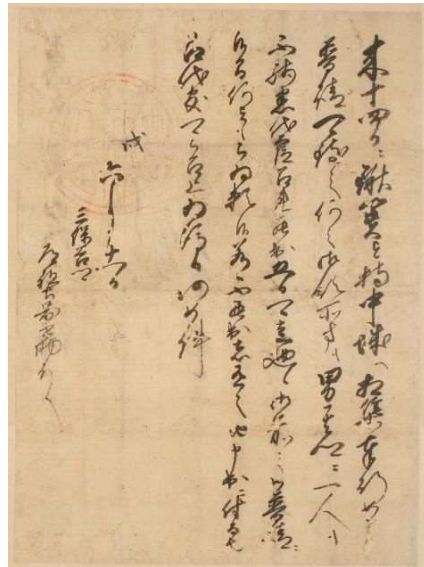
秀吉と小田原北条氏

天正13年(1585)、豊臣秀吉が関白に任命されると、次第に各地の戦国大名は上洛して秀吉へ服属の意を示すようになりまし。同15年、秀吉は、関東惣無事を実現するよう徳川家康に命じ、天下統一の実現を目指します。

しかしながら、小田原北条氏は、これを良しとせず、秀吉との軍事対立に備えた臨戦態勢に入りました。度重なる秀吉の上洛要請にも応じず、同17年、北条家臣猪俣邦憲が真田氏の拠点名胡桃城(群馬県)を奪取したことにより、秀吉による北条氏攻めは決定的となります。

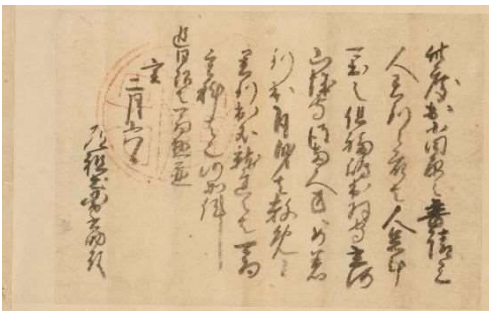
豊臣軍がやってくる?!?!

13・◎北条氏房朱印状〔道祖土家文書16〕



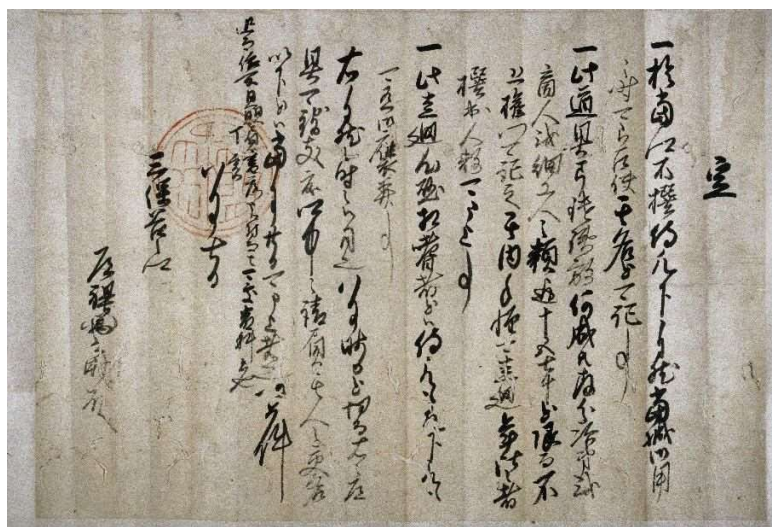
豊臣軍がやってくる?!?!

14・◎北条氏房朱印状〔道祖土家文書17〕



豊臣軍がやってくる?!?!

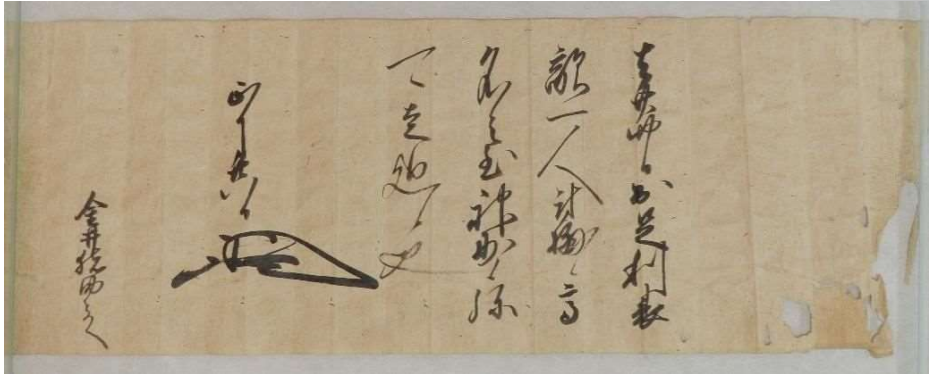
15・◎北条氏房朱印状〔道祖土家文書18〕



2. 秀吉の小田原攻め



16・北条氏直感状



〔金井家文書2〕

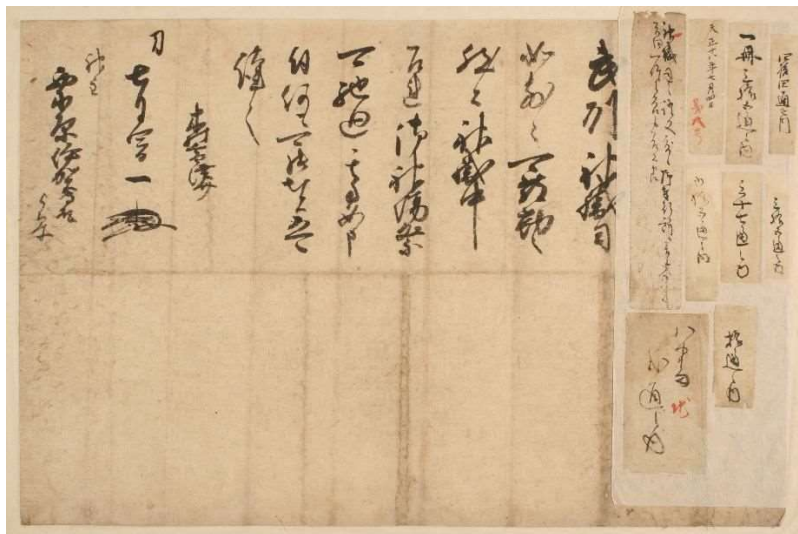
豊臣軍がやってきた!!!

17・○浅野長吉・木村常陸介連署禁制
(前欠) 〔北野天神社文書 1956〕



神職司として働くように

18・○木村常陸介書状 〔北野天神社文書 1957〕

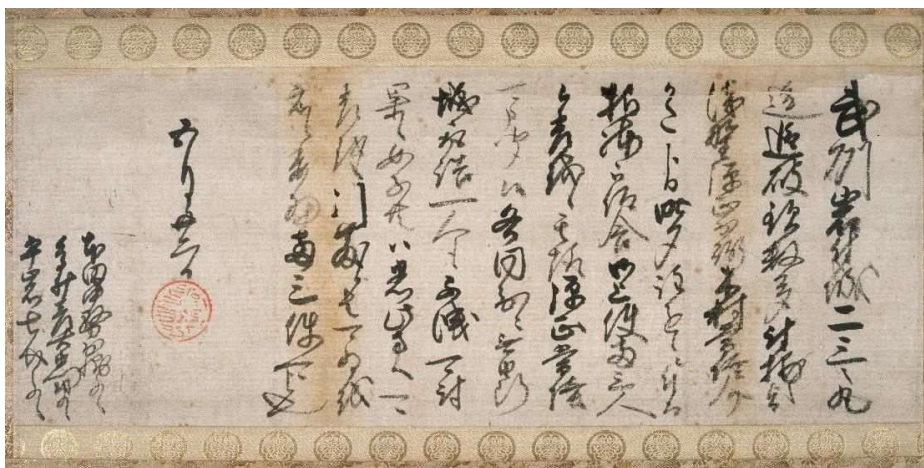




19・○前田利家黒印状
 神職司として働くように(ダブリ)
 〔北野天神社文書 1958〕



20・◎織田信雄書状
 豊臣軍がやってきた!
 〔埼玉県立文書館収集文書(平岩文書1)〕

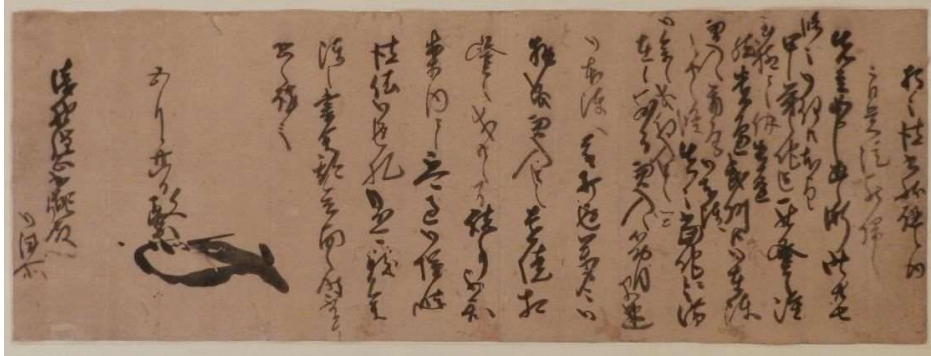


21・◎豊臣秀吉朱印状
 一切の容赦なく一人の漏れなく悉く
 〔埼玉県立文書館収集文書(平岩文書2)〕

2. 秀吉の小田原攻め

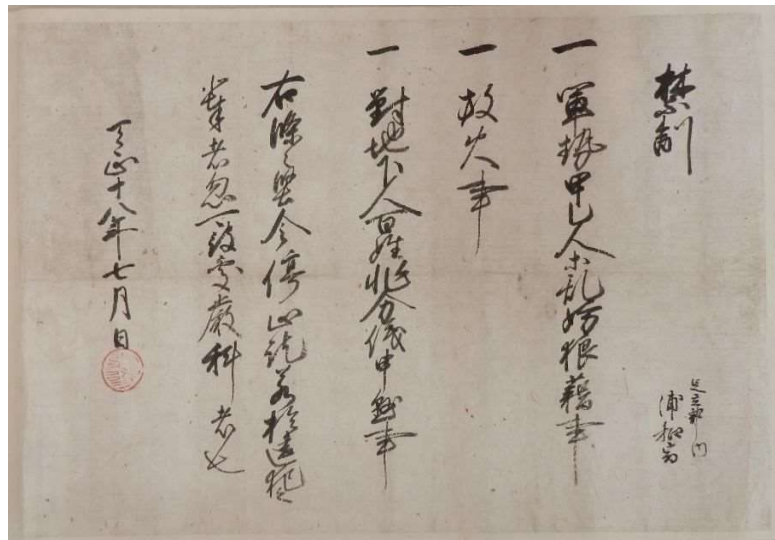
早く秀吉への取次を
22・○伊達政宗書状

〔杉浦家(伊奈家家臣)文書182〕



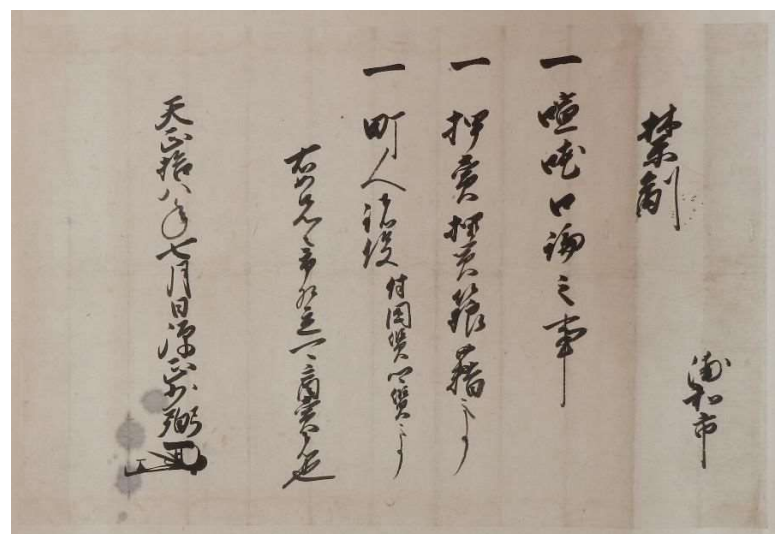
豊臣軍がやってきた!!!
23・○豊臣秀吉禁制

〔浦和宿本陣文書2〕



浦和の市宿に宛てた禁制
24・○浅野長吉禁制

〔浦和宿本陣文書3〕



戦国乱世の終焉と泰平の世

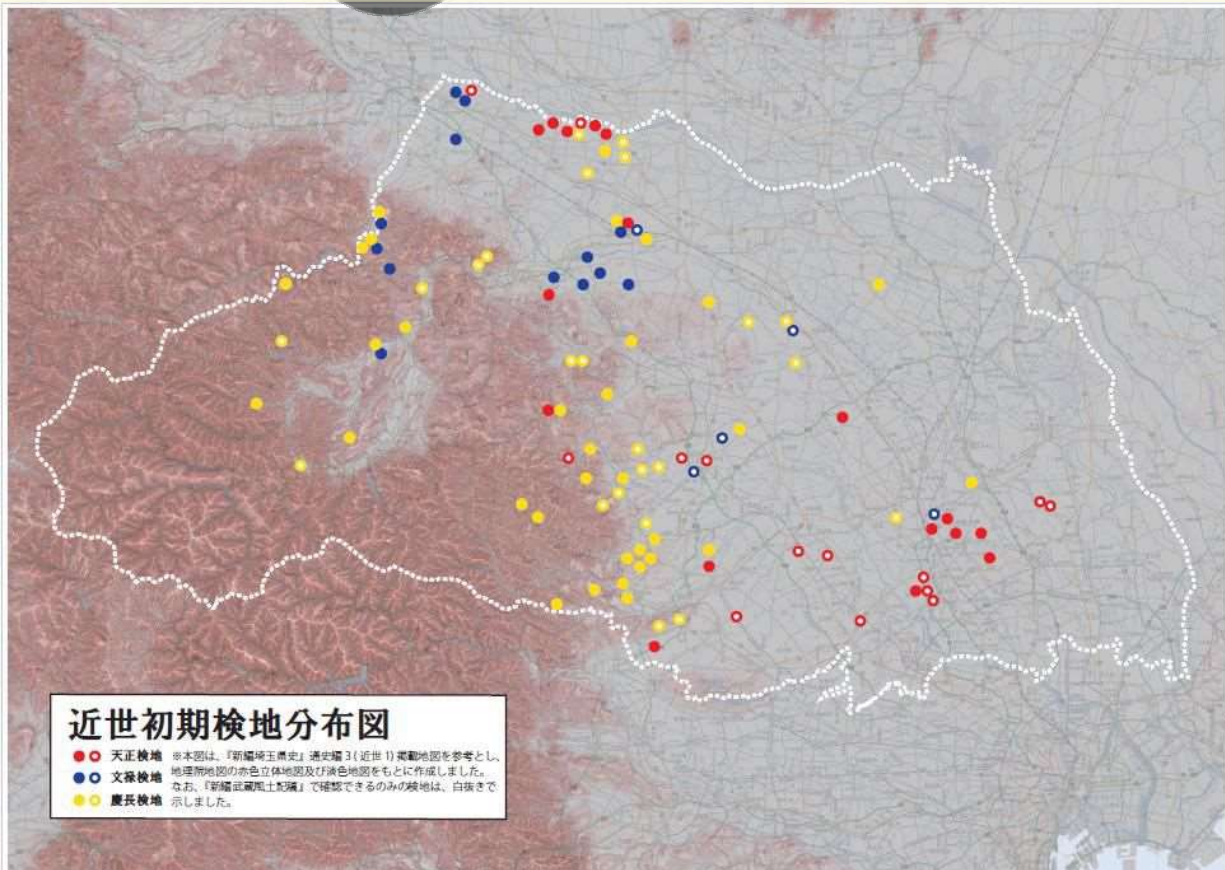


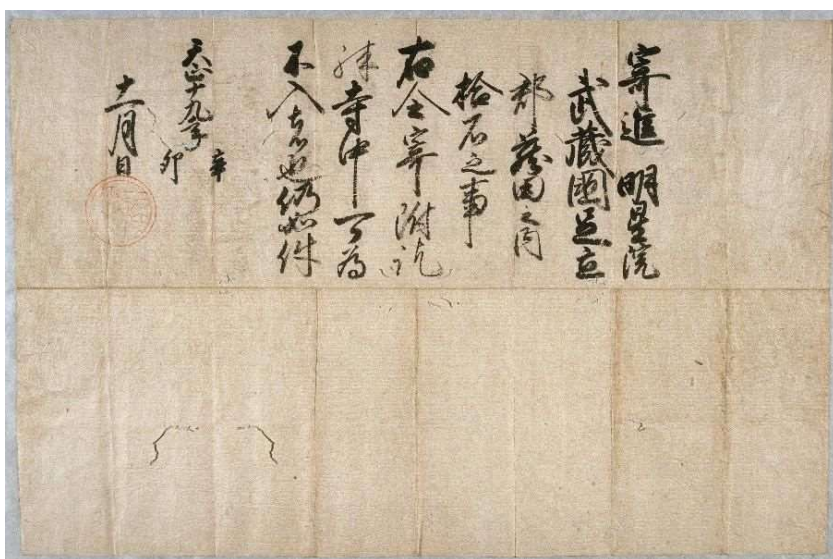
第二章

家康の関東入部

天正18年(1590)7月5日、小田原城は落城しました。北条氏の滅亡後、豊臣秀吉の命によって三河国(愛知県)から徳川家康が関東に入部します。これによって、関東の戦国乱世は終焉を迎えることとなります。家康は、それまでの社会構造を踏襲しつつ、新たな支配体制を構築していきます。

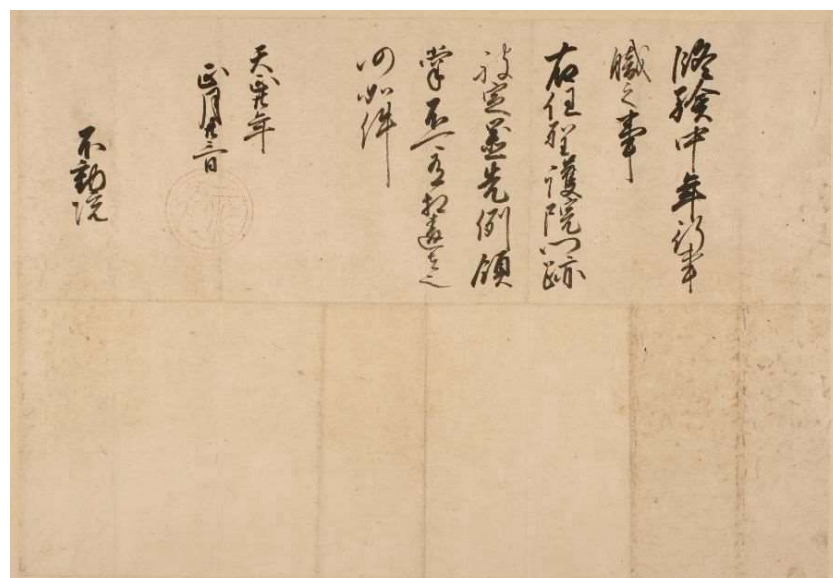
本章では、豊臣政権の動向と、“豊臣大名”としての家康による武蔵国を中心とした関東支配、特に既得権利の保障や検地などに焦点を当てます。





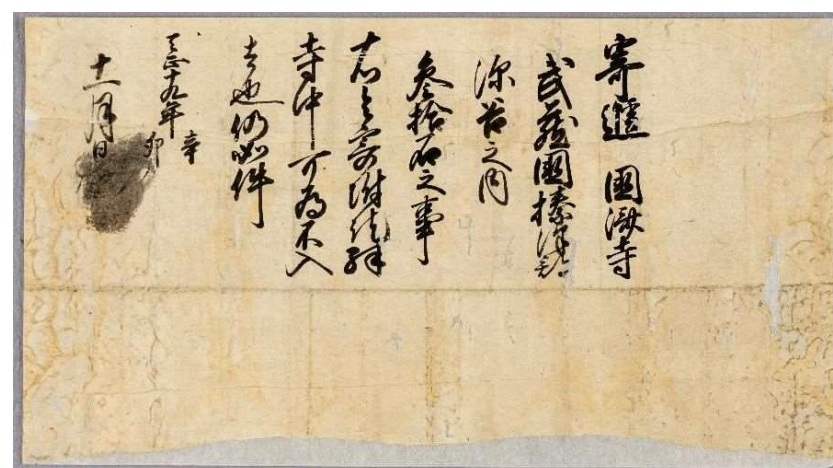
お引越しのお祝い返し?は...
25・◎徳川家康朱印状

〔明星院文書9〕



26・◎徳川家康朱印状

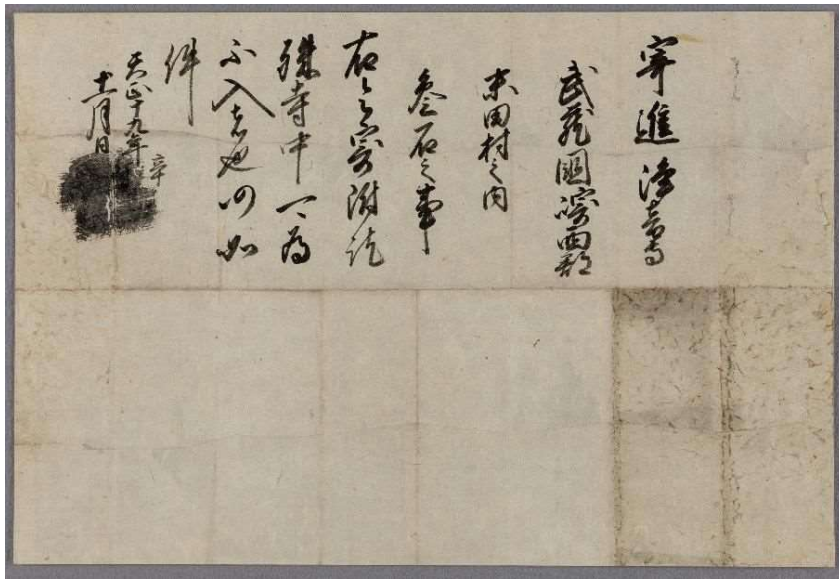
〔金子家(旧不動院)文書3〕



27・○徳川家康朱印状

〔西角井家文書 6084〕

3. 家康の関東入部



28・○徳川家康朱印状

〔西角井家文書 6102〕

武蔵国の太閤検地

天正19年(1591)、豊臣秀吉は、朝廷に献上する名目で、全国の大名に「御前帳」(石高をまとめた帳簿)の提出を命じました。ここから始まる太閤検地は、豊臣秀吉とその子飼いの大名が統一基準で行ったほかに、秀吉に従属した大名が独自の方法で行ったものもあります。埼玉県地域を含む関東での検地は後者に相当し、徳川家康が実施しました。

家康は、秀吉の手法に抛りつつ、三河国(愛知県)などの旧領で行った五ヶ国総検地における独自の方法を取り入れて検地を実施しています。

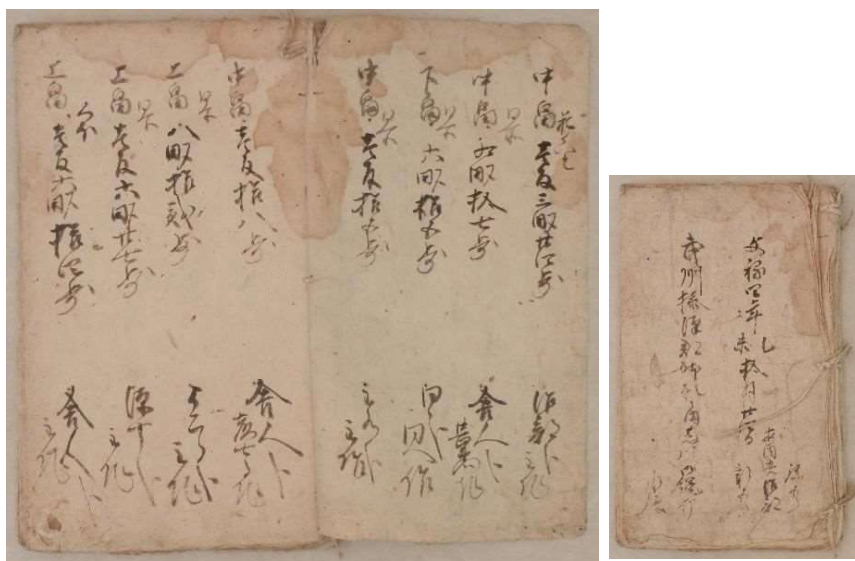


天正検地
29・○武州足立郡柴岡郷内三室村御繩打水帳
〔武笠(神主)家文書 304〕

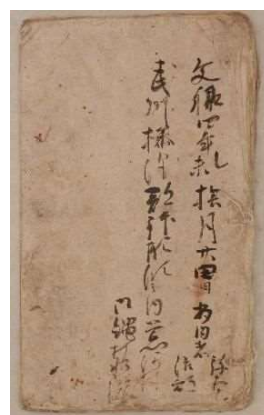


文禄検地

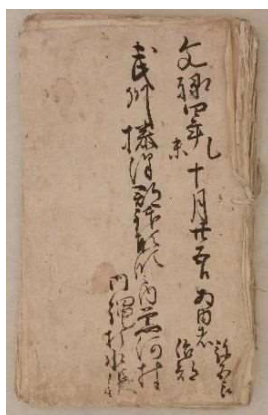
30・◎武州榛沢郡鉢形領之内荒川御繩打水帳
〔持田英家文書24〕



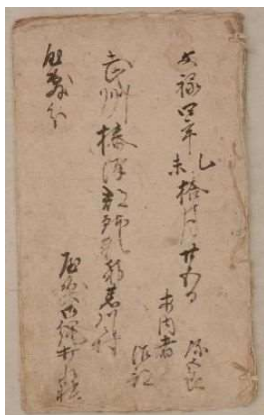
◎武州榛沢郡鉢形領之内荒河村御繩打水帳
〔持田(英)家25〕



◎武州榛沢郡鉢形領之内荒河村御繩打水帳
〔持田(英)家26〕



◎武州榛沢郡鉢形筋荒川之村屋敷御繩打水帳
〔持田(英)家27〕

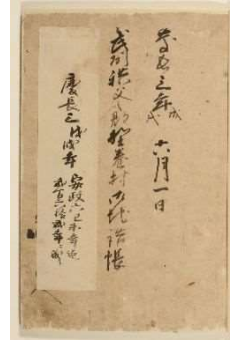
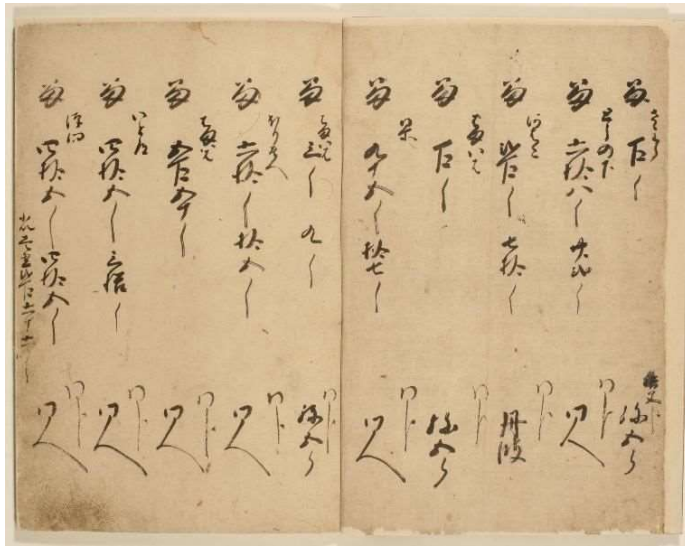


慶長検地

31・武州秩父郡大駄之郷坪入御帳
〔埼玉県立文書館収集文書4〕



3. 家康の関東入部

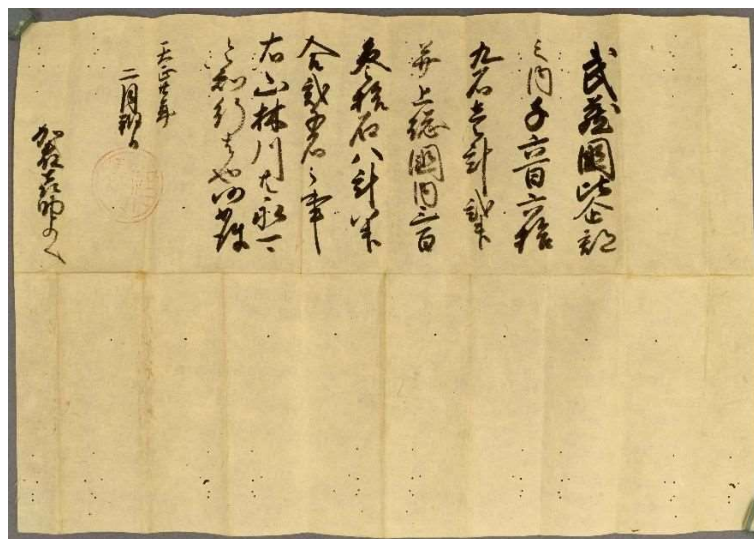


慶長検地
32・◎武州秩父郡野卷村御地詰帳
〔逸見家文書11〕

関ヶ原の戦と武蔵国

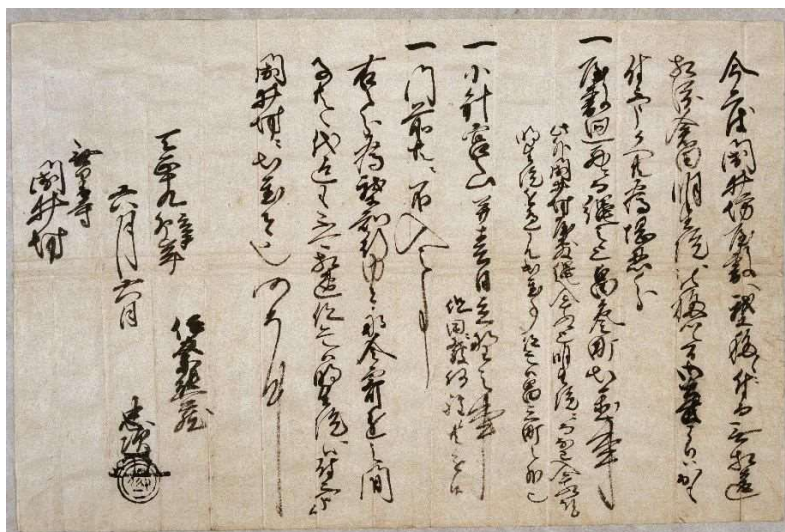
慶長2年(1598)8月に豊臣秀吉が死去すると、政権内部の対立が表面化します。同5年、会津(福島県)に転封された上杉景勝征討の途上にあつた徳川家康は、小山(栃木県)の陣営で石田三成蜂起の報に触れ、大坂に軍を向けました。同5年9月15日、美濃国関ヶ原盆地(岐阜県)において、家康率いる東軍10万と、三成率いる8万の西軍が決戦に及びました(関ヶ原の戦)。合戦後、家康に従った関東の諸将は加増を受けるとともに、諸城の整備が行われるなど、新たな支配体制の構築が進められていきました。

三河以来の旗本です
33・徳川家康朱印状



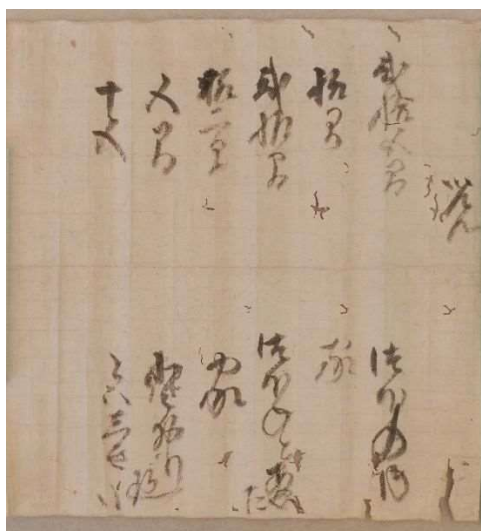
〔加藤家(旗本)文書1〕

34・◎伊奈忠次手形
治水・開発の拠点を築く



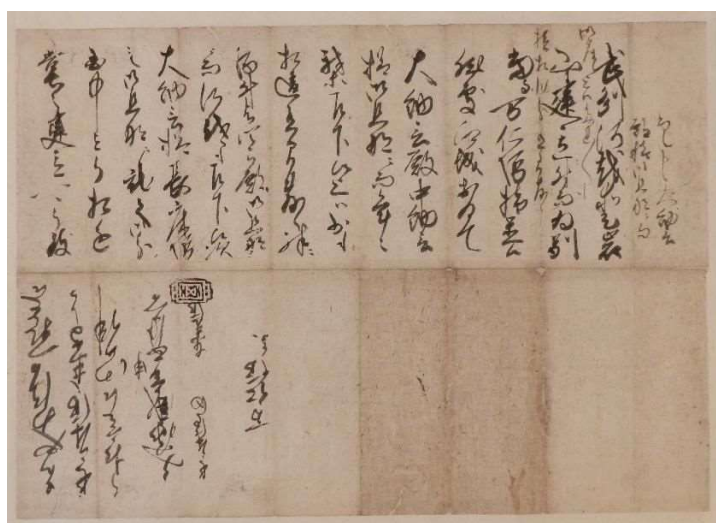
〔明星院文書8〕

35・○屋敷坪割書
1間||約1.81メートル



〔杉浦家(伊奈家家臣)文書26〕

36・東光坊証状
信仰する人びと



〔市川家(旧万人坊)文書2〕

3. 家康の関東入部



天下分け目の一見!
37・◎「関ヶ原合戦両軍配置図」
〔小室家文書 4684〕

戦国乱世の終焉と泰平の世

第四章

江戸開幕

慶長8年(1603)、徳川家康は征夷大將軍に任じられます。正式に全国を統治する権利を獲得し、ここに江戸幕府が誕生しました。その後、將軍職は2代秀忠、3代家光へと世襲されました。関ヶ原の戦や大坂の陣を経て、政權は徳川家が担うことが世に示されたのです。

本章では、“天下人”となった徳川將軍家が、新たな秩序の構築をすすめ、戦乱のない“泰平の世”の基盤を整えていった過程を紹介します。

徳川政権と武蔵国

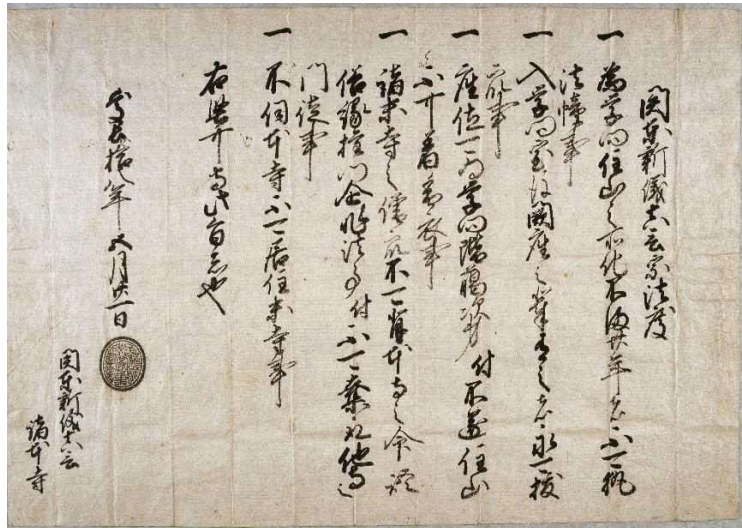
関ヶ原の戦後、家康は、関東領国下の上級家臣を大名として、新たに獲得した城地へ移しました。武蔵国からの転出は顕著で、その跡地は幕府直轄領や旗本領として再編されました。幕府直轄領は、家康の関東入国直後から関東の農政や地方支配にあたった代官伊奈忠次らによる検地・治水・新田開発等を通じて、整備が進められました。

また、再編の結果、現在の埼玉県域に残された、川越・忍・岩槻の三城には、譜代大名が主として配され、幕政を支える拠点として機能していききました。

決まりを守って活動してね

38・◎関東新義真言宗法度

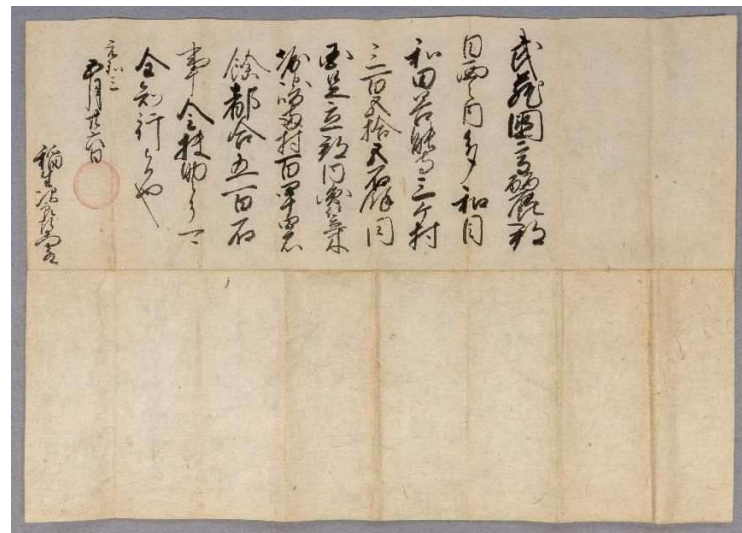
〔明星院文書10〕



知行地の権利を認めます

39・◎徳川秀忠朱印状

〔稲生家文書1290〕





土地の把握は確実に
43・武州河越領高萩村御検地水帳

〔飯島徳蔵氏収集文書 260〕

おわりに

史実と偶像

現代に至るまでの歴史の流れの中で、歴史上の人物は時に神格化され、また時に英雄視されました。それは、各時代の為政者の意図や社会的背景によるところが大きくありました。

ここでは、近世以降に豊臣秀吉を取り上げた資料を紹介します。本展覧会の内容と照らし合わせることで、資料から得られる史実と脚色された偶像の違いを見つめ直していただければ幸いです。

草履あたためました

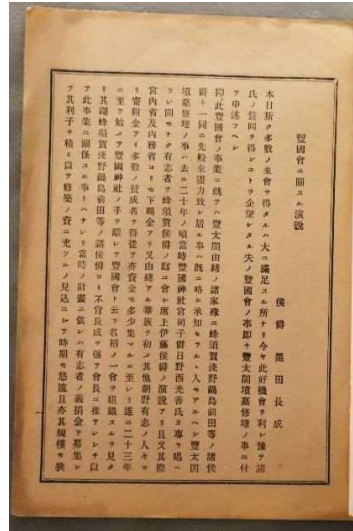
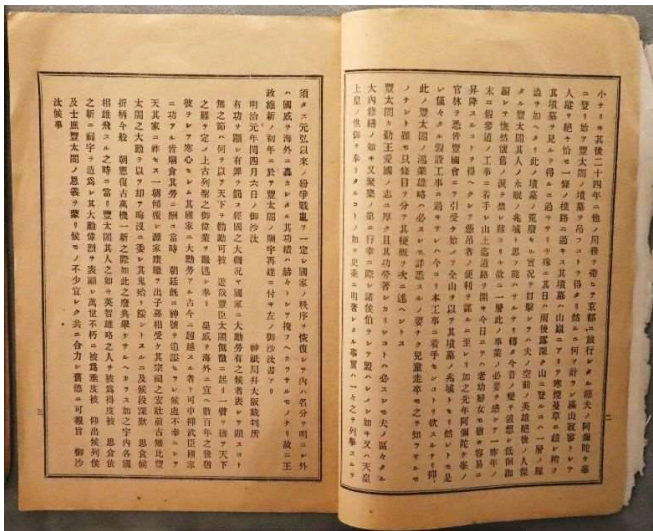
41・「絵本太閤記 初篇」

〔東家文書 271～274〕



明治時代の秀吉ブーム

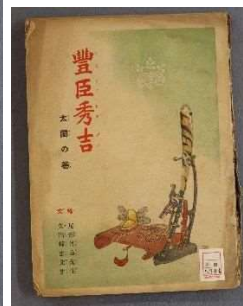
〔加藤家文書 2116〕



立身出世の物語

43・講談社の絵本「豊臣秀吉」

〔川田氏収集文書 5394〕





44・豊臣秀吉〔幼年倶楽部〕第十卷第九号附録
〔古沢家文書 2420-1〕



45・豊臣秀吉〔少年倶楽部〕第二十四卷第一号附録
〔古沢家文書 2420-10〕

特集展示 城絵図の世界

豊臣秀吉が攻めた武蔵国の城は、史跡や城絵図として遺されています。

城絵図は曲輪の配置、周辺の地形などを描いた絵図で、特に近世の城下町を詳述したものを城下絵図などといいます。その他にも、航空写真を見ると現代の地形や、町割りの中に城跡が潜んでいることがわかります。これらの城絵図や地形を眺めて、戦国乱世を想像するのは、幕末や明治の好古家も同じだったようです。

城絵図と航空写真を眺めて戦国時代に思いをはせてみましょう。

49.武蔵鉢形城絵図〔新田家文書 1〕

鉢形城跡

鉢形城は、荒川が秩父山地から平野部へ出て、深沢川と合流した切り立った崖の上に築かれた山城です。荒川の水運や、鎌倉街道上道、秩父往還などを押さえる交通の要衝でもありました。

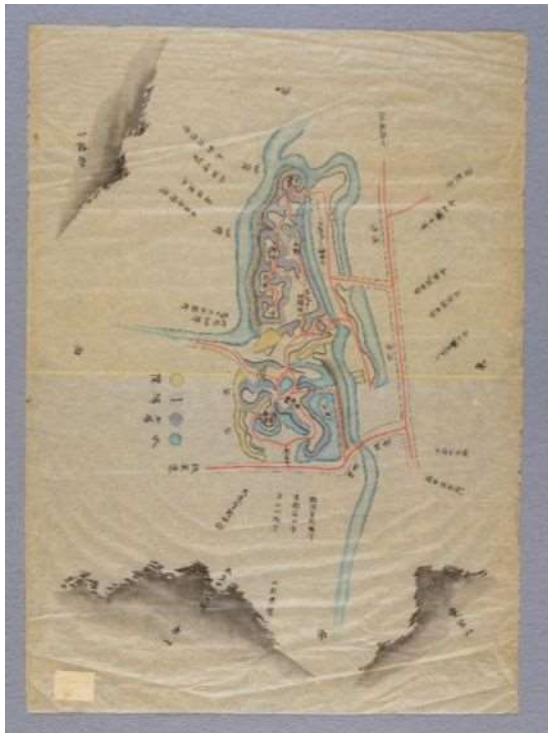
天正18年(1590)の豊臣軍の侵攻に際して、城主北条氏邦は、浅野長吉・木村常陸介・上杉景勝・前田利家らに攻められ、一か月に及ぶ籠城を経て開城しました。

文書館に遺された資料からは、後世までも秩父や寄居地域の人々が氏邦を慕う様子がうかがわれます。

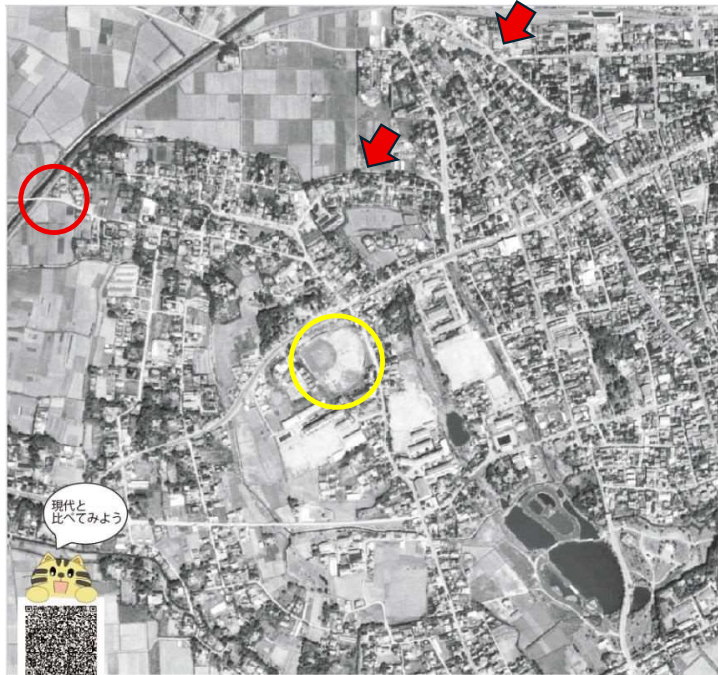


53. 昭和41年の鉢形城跡付近(部分)

〔埼玉県航空写真S41 A-7-1〕



50・51. ◎鉢形城縄張り図〔小室家文書 6457・6459〕



忍城跡

忍城は、利根川と荒川に挟まれた平坦な沖積地の、四方を沼地で囲んだ湿地帯に築かれた平城です。城の土地は、沼地を埋め立てて形成され、発掘調査では竹を筏状に組んだもので地盤補強をしていたことが分かっています。

豊臣秀吉は、天正18年(1590)に侵攻した石田三成らに、大規模な大堤を作つての水攻めを敢行させています。

忍城については、幕末から明治にかけて活躍した旧忍藩士の漢学者清水雪翁が多くの考察を残しています。

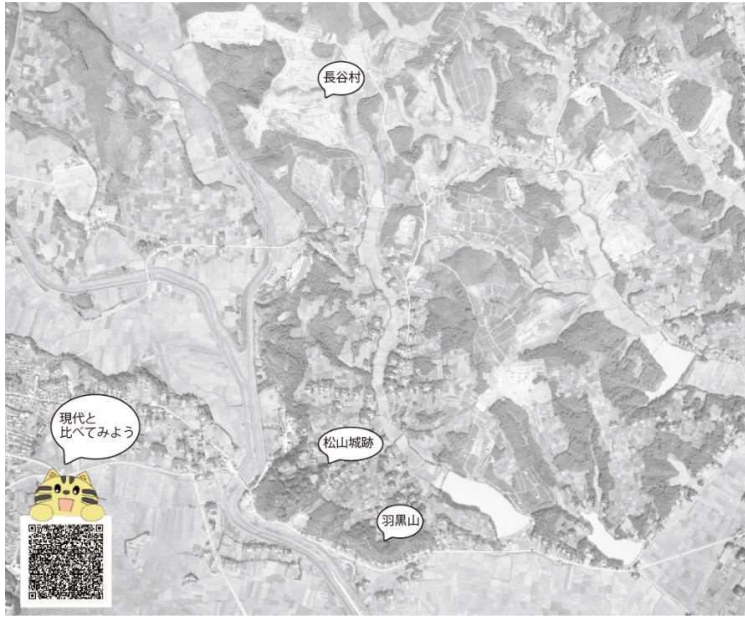
56. 昭和41年の忍城跡付近(部分)
[埼玉県航空写真S41 A-7-14]



55. ©武州忍城図(写)[小室家文書 741]



54. 忍城絵図[中村(宏)家文書 282]



松山城跡

松山城は、比企丘陵の東端突端部に位置し、南側を市野川に囲まれた天然の要害に築かれた平山城です。

天正18年(1590)の豊臣軍の侵攻の際は、小田原北条氏配下の城として、前田利家・上杉景勝の大軍に包囲され落城しました。

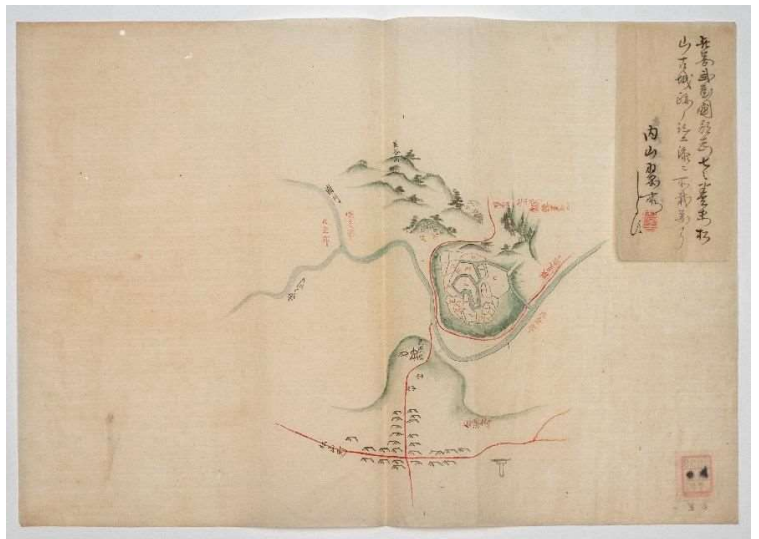
幕末から明治時代に横見郡久米田村(吉見町)の名主・戸長を務めた好古家の内山作信のまとまった研究成果があり、『松山城蹟略考』(小室家文書2892)が著されています。

60. 昭和41年の松山城跡付近(部分)

[埼玉県航空写真S41 A-10-12]



57. 古城跡近傍図(松山城)(写)[小室家文書747]



58. 松山城蹟図(写)[小室家文書740]



59. 松山城跡本丸全図(写)[小室家文書736]

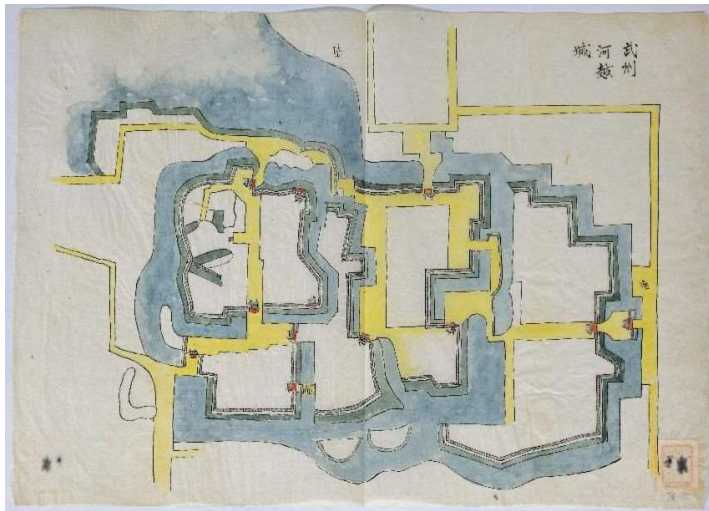


63. 昭和 41 年の川越城跡周辺の航空写真 (部分)〔埼玉県航空写真S41 A-15B-02〕

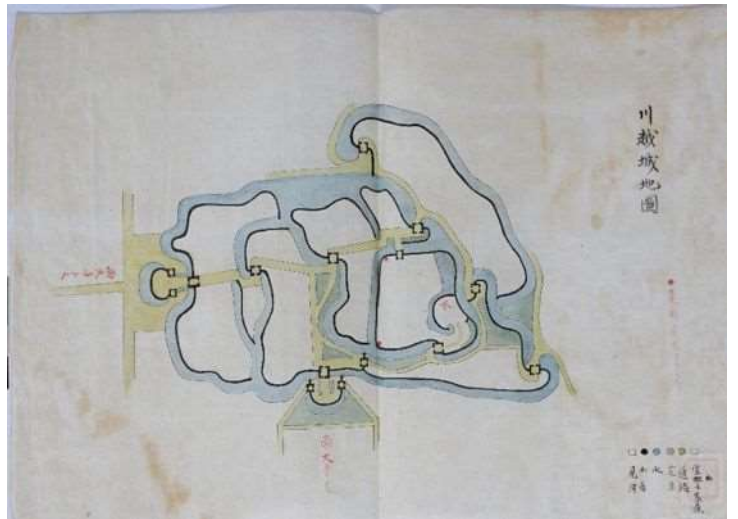
難波田城は、現在の富士見市南畑の荒川と新河岸川に挟まれた低地の中で、自然堤防が最も発達した場所に築かれた平城です。難波田氏の居城で、川越と江戸を結ぶ荒川流域を警備する境目の城として役割を果たしたとされています。豊臣軍侵攻の際には、難波田氏は松山城での籠城に参加していました。

川越城跡・難波田城跡

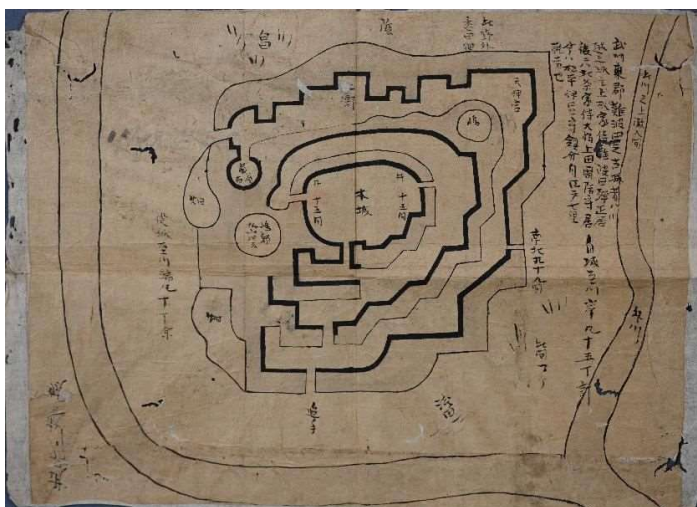
川越城は、仙波台地の北東突端部にあり、入間川の支流新河岸川に囲まれた台地上と、東側の湿地を取り込んで築城された平山城です。豊臣軍侵攻の際には前田利家らによって開城されました。



61. ◎武州河越城地図(写)〔小室家文書 745〕



62. ◎川越城地図(写)〔小室家文書 748〕



64. 武州難波田古城図〔飯島徳蔵氏収集文書 764〕



65. 昭和 41 年の難波田城跡付近(部分)〔埼玉県航空写真S41 A-17B-6〕

氏直の間で和睦が結ばれ、上野国(群馬県)は北条(山梨県)・信濃国(長野県)は徳川氏の領国と、甲対立は続いた。寺(山梨)を以て有を保障せう。甲州一蓮寺の寮舎・末寺并石田等之事右如前々不可有。違相 正十年壬午十一月 一蓮寺 押花

8. ◎北条氏邦書状(一通/堅切紙/天正11年(1583)5月17日) 鉢形城主北条氏邦家、小田原北条氏の家臣併和康忠に宛てた書状で書。上野国(群馬県)沼田氏の一族とされる赤見氏は、甲斐武田氏に属し、その滅亡後は北条氏に仕え、天正壬午の乱後の国分において信濃国が徳川領国となつた。上野国に移り住んだ入道は松井伯(群馬県)に2貫文を与え、如何共進退不成。この際に、取次を行つた赤見入道の義績を記す。氏邦です。氏邦入道が小

田原(神奈川県)へ参府する旨を伝え、大聖院殿御証文以下二も、最前二罷出候。松井伯領所之内、家康が北条氏に仲介した秀吉の通達を、当時の北条氏と佐竹氏ら反北条勢力との対立は私戦と見なし、違戻するものと捉えられまし

◎徳川家康書状(写) (英家文書23) 一通/堅紙・卷子装/田持 天正11年(1583)カ 11月15日 ※パネル展示 とは戦国時代の秩序維持や回復など、織田政権下で関東の平和を実現を担つた徳川家康は、天正壬午の乱ひ戦乱に陥つた。秀吉から一任され、本資料は、天正11年(1583)、無現を命じた秀吉の通達を、家康が北条氏に仲介した。氏と佐竹氏ら反北条勢力との対立は私戦と見なし、違戻するものと捉えられまし

関東惣無事之儀二付、而、羽柴方、此、今朝比奈弥太郎、御為、氏直江も可申達候、之、様、御陣江被下届可、儀、其、能、不、上、二、申、一、個、十五、日、北、左、京、太、夫、殿、言、謹、々、

2考参 起請文(萩藩毛利家家中)文書85-3 一通/継紙・卷子装/ 天正10年(1582)6月9日 天正10年(1582)6月2日 備中高松城(岡谷県)攻めの陣中、豊臣秀吉は、即座に毛利氏と講和し、金軍を京へと取つ、返し、本資料は、直後に毛利輝元らが伊賀与三郎(家久)に宛てた、戦功を賞し、今後もおおざり、しないことを神仏に誓つ、裏面に牛玉宝印が押さ

た。 関東惣無事之儀二付、而、羽柴方、此、今朝比奈弥太郎、御為、氏直江も可申達候、之、様、御陣江被下届可、儀、其、能、不、上、二、申、一、個、十五、日、北、左、京、太、夫、殿、言、謹、々、

展示資料解説

厄除けの護符である牛玉宝印は多くの社寺で配ら 特に熊野那智大社(和歌山県)のものが有^れで 熊野神の使であるカラスを木版刷で配し、宋印を押し 表面に書かれた神仏への誓約を破れ^し 罰を受けるこ 記された神仏の名は 文書を 発給する側が属する地域性を示すことがありま 本資料に 毛利氏が信仰し 厳嶋大明 本資料に見え^す

神・天満大自在天神御罰
 毛利
 輝元(花押)
 吉川
 元春(花押)
 小早川
 天正十年六月九日

参考1 一通/井原(萩藩毛利家家中)文書85-4
 天正11年(1583)閏正月12日
 天正10年(1582)6月2日 の変が
 備中高松城(岡本県)攻めの陣中
 羽柴秀吉は 即座に毛利氏と講和し 本資料は、
 軍を京へと取^つ、返^し

参考2 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考3 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考4 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考5 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考6 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考7 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考8 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考9 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考10 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考11 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考12 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考13 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考14 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考15 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考16 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考17 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考18 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考19 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

参考20 本資料は、宛所は宛てた
 の翌年に毛利輝元が伊賀与三郎(家久)に宛てた
 の平和を誓^つ

図書助(満兼)に宛て
わす、非常時に動員すべき戦鬪員の数を把握す
ることを目的と、8月晦日までに弓・
槍・鉄砲などの装備を準備す
70歳を対象に選出し、その名を記した交名(名
簿)を同月20日までに提出せよと命じられて
すまい

一、
於之時可被召使其名を可記事

を限而不

出人数可申上事

をハ侍ニて

凡下ニても

有御褒美事

をハ侍ニて

凡下ニても

道之右、而切

丁亥(天正十八年)七月廿日

道祖土図書助

也者科殿

件如仍

北条直感状

2書文家井金

侍を問

一通/横切紙

「天正18年(1590)」正月28日

本資料は北条氏直が金井猪助の足
での働きを賞した感状で、足利城(栃木県)主
の長尾頭長は、実兄の桐生城(群馬県)主由良国
繁と、北条氏と佐竹氏ら反北条氏との勢
力と境目に位置する両毛地域を領有していまし
たに、双方から懐柔をうけて、北条氏
からの離反・従属を繰り返し、天正18年
(1590)にも、頭長は、一旦は反北条氏方と
した。北条軍の攻撃を受けますが、小田原攻め
の際には北条方として国繁とともに小田原城に
籠城しています。

足利表

正月廿八日(花押)
金井猪助とのへ

17. ○浅野長吉・木村常陸介連署禁制(前欠)

一通/堅紙カ 天正18年(野北) 月日 1956
小田原城を包囲した豊臣軍から分かれた浅野
弾正少弼(長吉)・木村常陸介らの軍勢は、房総
地方を押さ、南方から関東の諸城を攻略して

本資料は、長吉らが自軍の放火や非
前欠なので宛所を

に宛てたものと考え、戦場では略奪行
為を横行し、持社(町)は、事前に侵攻軍と交
渉す、乱妨停止の禁制を入手し

東海道軍から分派した浅野し木村両名に
「制札」(禁制)を要望の、た、百枚を与え

られたことが知ら、富岡周吉郎所蔵
文書)ま、北軍の侵攻に伴つ、発給された

秀吉の制札に、北軍の侵攻に伴つ、発給された
制札発給に伴うす御、遣賦、て、管理さ

え秀吉に進上し、御、遣賦、て、管理さ
守、教的な対価を払つ、自衛し

寺(前欠)か、わが、す、の、た、し

社、地下人百姓非分申懸事

天正十八年六月日 浅野弾正少弼(花押)

木村常陸介 (花押)

18. ○木村常陸介書状(北野天神社文書1957)

一通/折紙

寅「天正18年(1590)」7月4日

天正十八年六月日 浅野弾正少弼(花押)

木村常陸介 (花押)

18. ○木村常陸介書状(北野天神社文書1957)

展示資料解説

23. ○豊臣秀吉禁制〔浦和宿本陣文書2〕

一通／堅紙・卷子装／

天正18年(1590)7月日

本資料は、豊臣秀吉が浦和宿(さいたま市)に宛てた禁制で、中で秀吉は、①軍勢なごの乱、②放す、③地下人(領民)・百姓への妨非(不当)な行為を禁止し、(不)が武蔵国内に発給した禁制は、この「」の3つの内容がほぼ固定化さ、本資料は、月29日付の浅野長吉(浦和宿本陣文書)で浦和郷へ御朱し(豊臣秀吉禁制)を約したことを受けて発給されたものと考え、月末段階で、浅野長吉・木村常規(二名は小田原の本陣)から分離した後、浦和の行軍の途に、浦和の人びとは長吉に、浦和の武禁制発給の約諾を得たものと思われる。

足立郡内

浦和宿

正十八年七月日



(豊臣秀吉朱印)

24. ○浅野長吉禁制〔浦和宿本陣文書3〕

一通／堅紙・卷子装／

天正18年(1590)7月日

本資料は、浅野長吉が浦和市(さいたま市)におに、①喧嘩、②押売・押買の禁止、③町人役(税)の免除、の禁止を命じている。国論・郷質とは質取の一種で、他国主である借主へ、質返還などを求め、貸主が借主の同国人・同郷人の身柄や動産を差し押さえることを意味する。本資料が発給される時期は、武蔵国での戦闘もほぼ終息に向か、く時期で、軍勢の濫妨狼藉を主とする禁制で、す。市における混乱の停止を命じた内容か、本資料が戦後処理の一環として発給された意味合いが伺える。

浦和市

禁制

付国質・郷質之事

右

天正十八年七月日

正少弼(花押)

25. ○徳川家康朱印状

取立

徳川家康朱印状

星明文書院

一通／折紙／天正19年(1590)11月日

No.25(28)は、埼玉県地域の寺社に出さ

天正19年(1591)11月日付徳川家康朱印状

です。家康の関東入部に伴い発給さ

た、家康は、寺社に土地を寄附し、

これ、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

は、寺社に土地を寄附し、

此外四町老反三畝歩水流二引
屋敷四反九畝歩 此代四百九拾文 百代

永立合式貫式百式拾八文

右 八十一月廿日を切

此 於無沙汰ニハ鑑責を以

相 申可

上 九月廿一日

之 伊備備

上 須加村

件 如仍

名 主百姓中

武 州河越領高萩村御検地水帳

43 冊／堅帳／慶安元年(1648)2月29日

出 越藩主松平信綱は蔵慶安元年(

に 領内川越以北の村々を以て中心に検地を行いまし

た 本資料は 際高萩村(日高市)におけ

る 検地帳と視ら 書耕作地の等級と面

年 高負担者の増前が記さ No.29

32 帳 取り上げた文禄・慶長期の検地帳と異な

り 分付記載が見ら

「 慶安元年 拾五冊之内

武 州河越領高萩村御検地水帳

子 ノ

二 月廿九日

八 郎右衛門

藤 八郎

七 郎右衛門

八 郎右衛門

権三郎
十右衛門

廿間 (一丁半 省略)

廿間 下畠 老反三畝十歩 治右衛門

三十間 下畠 老反七畝式歩 金十郎

十六間三十式歩入

十四間半 下畠 九畝四歩 茂左衛門

十六間半三十五歩入

十間 下々畠 四畝十四歩 五郎兵衛

十式間九歩入

十老間 下々畠 式畝十七歩 当発 同人

七間

八間 下々畠 式畝廿歩 当発 金十郎

十間

八間 下々畠 老畝廿六歩 五郎兵衛

七間

十老間 下々畠 六畝十八歩 同人

十八間

十四間 下畠 老反老畝六歩 同人

廿四間

四間 下畠 老畝式歩 助十郎

八間

(後略)

44: 「絵本太閤記初篇」〔東家文書 271〕〔274〕

一冊／堅帳／
現在の私たちが抱く豊臣秀吉のイ
の基

は「太 記」に拠るところが大きい

これ 生前の秀吉を知る大村由景の天

や 太田牛一の 閣太 軍物語調で記述されたこともあ

著 した 軍物語調で記述されたこともあ

り 講談などの題材と

時 伏中期に

や 浄瑠璃で上演

が 流行し 歌舞伎

45 冊／明治30年(1897)6月

明 治29年(1896)の墳墓修築と

没 意 300年祭挙行を指し豊国会が設立されま

す 本資料は 設意書で 秀吉は

没 後に神格化されましたが(豊国大明神)、

の 世では崇拝することも憚ら

明 治政府は 国威ヲ海外ニ擴カ

して、秀吉を顕彰し 新人物と

賀・浅野・鍋島・前田家と。 秀吉由緒の

諸 が尽力し、室内省及び内務省からの下賜

金 や朝野有志の人びとよき寄附金が

46 講談社の絵

一冊／多色刷／刊行物／川

昭 和13年(1938)12月1日

吉 秀巨書一本

書 文集収1日

い と た つ あ

5394

城絵図と対照す 上部の特徴的な二つの
曲がり、道は、土塁の跡と分か

57・吉城跡 舗／「近代」
747

57・吉城跡 舗／「近代」
747

古蹟ノ記ニ添ヒ所載図ナリ 内田作信によ
と貼り紙が 内田作信による考証がされて

す貼り紙の左側に 羽黒山 此山ヨリ骸骨多出
という物騒な伝承が記さ

58・松山城跡 舗／「近代」
740

地誌掲載の絵図を照らして松山城跡の鳥観図
で「本」書文家室小一すまいてれ

跡で 蹟野川の水面やど派な枝ぶりの木
遠景の山々など表現が絵画的で 長谷

村の描写は 昭和40年代以前に存在した八幡
山という噴丘だと思わ 雷電山は東松山市

59・松山城跡 舗／「近代」
736

図全丸本跡城山松 舗／「近代」
武蔵国郡志卷之七 卷末松山城跡ノ記
但本丸全図書アレトモ本丸ノミ

二非ス 全図ナ 然トモ本然ノ地理ト異所ア
レハ善図ト云々カラス内 土内山作信
の考証が

60・和昭 41年の松山城跡付近(部分)
S 41 A-10-12

市野川が松山城跡付近で蛇行していることが
堀代 城が頑丈な地形と

よりの川を利用して作られたことがよくわかり
「松山」 長谷村(山) 古

62・川越城地図(写) 舗／「近代」
748

この絵図も 山県大武が編纂
記田原北条氏の時代の河越城は 主図合

三の丸 秀吉が攻めた
の丸 考えられ

65・和昭 41年の難波田城跡付近(部分)
S 41 A-17 B-6

難波田城の城絵図は8枚程度確認さ
そのうちの1枚で 多 島藩浅野

家の軍字のテキストの写しと考え
遺構の残りが良 難波田

63・昭和41年の川越城周辺の航空写真(部分)
S 41 A-15 B-02

の軍学的な絵図の写しがあり

63・昭和41年の川越城周辺の航空写真(部分)
S 41 A-15 B-02

市野川が松山城跡付近で蛇行していることが
堀代 城が頑丈な地形と

よりの川を利用して作られたことがよくわかり
「松山」 長谷村(山) 古

64・武州難波田古城図(飯島徳蔵氏収集文書764)
舗／「近代」

難波田城の城絵図は8枚程度確認さ
そのうちの1枚で 多 島藩浅野

家の軍字のテキストの写しと考え
遺構の残りが良 難波田

65・和昭 41年の難波田城跡付近(部分)
S 41 A-17 B-6

難波田城の城絵図は8枚程度確認さ
そのうちの1枚で 多 島藩浅野

家の軍字のテキストの写しと考え
遺構の残りが良 難波田

65・和昭 41年の難波田城跡付近(部分)
S 41 A-17 B-6

展示資料解説

参考文献

【書籍】

- 池上裕子編『中近世移行期の土豪と村落』（岩田書院、2005）
池上裕子『中近世移行期の検地』（岩田書院、2021）
和泉清司『徳川幕府領の形成と展開』（同成社、2011）
和泉清司『江戸幕府代官頭伊奈備前守忠次』（埼玉新聞社、2019）
今井林太郎『石田三成』（吉川弘文館、1988）
岩沢厚彦『前田利家』（吉川弘文館、1988）
宇高良哲『徳川家康と関東仏教教団』（平文社、1987）
江田郁夫・篠瀬大輔編『北関東の戦国時代』（高志書院、2013）
岡崎寛徳『鷹と將軍 徳川社会の贈答システム』（吉川弘文館、2024）
河内将芳編『秀吉と豊臣一族研究の最前線』（山川出版社、2025）
北島正元『江戸幕府の権力構造』（岩波書店、1964）
黒田基樹『徳川家康の最新研究―伝説化された「天下人」の虚像をほぎ取る―』（朝日新書、2023）
齋藤慎一『戦国時代の終焉―北条の夢と秀吉の天下統一』（中公新書、2005）
齋藤慎一『中世東国の道と城館』（東京大学出版会、2010）
柴裕之『秀吉と秀長―豊臣兄弟の天下統一―』（NHK出版新書、2025）
竹井英文『織豊政権と東国社会―「惣無事令」論を越えて―』（吉川弘文館、2012）
谷口央『幕藩制成立期の社会政治史研究』（校倉書房、2014）
戸谷穂高『東国の政治秩序と豊臣政権』（吉川弘文館、2023）
根崎光男『鷹』（法政大学出版会、2024）
野村玄『豊国大明神の誕生―変えられた秀吉の遺言―』（平凡社、2018）
日本史料研究会編『秀吉研究の最前線―ここまでわかった「天下人」の実像―』（洋泉社、2015）
日本史料研究会編『家康研究の最前線―ここまでわかった「東照神君」の実像―』（洋泉社、2016）
平山優『天正壬午の乱』（戎光祥出版、2015）
藤井讓治『徳川將軍家領知宛行制の研究』（思文閣出版、2008）

藤井讓治『天下人の時代』（吉川弘文館、2011）

藤井讓治『戦国乱世から太平の世へ』（岩波書店、2015）

藤木久志編『織田政権の研究』（吉川弘文館、1985）

藤木久志『豊臣平和令と戦国社会』（東京大学出版会、1986）

本多隆成『近世初期社会の基礎構造―東海地域における検証―』（吉川弘文館、1989）

峰岸純夫『中世災害・戦乱の社会史』（吉川弘文館、2001）

村上直・根崎光男『鷹場史料の読み方・調べ方』（雄山閣出版、1985）

盛本昌広『松平家忠日記』（角川書店、1999）

矢田俊文『戦国期文書論』（高志書院、2019）

長沢士朗『武州松山城―松山城をめぐる関東の諸情勢―』（吉見町、1994）

【展示会図録】

川越市立博物館『常設展示図録』（1991）

横浜市歴史博物館『秀吉襲来―近世関東の幕開け―』（1999）

鉢形城歴史館『鉢形城開城―北条氏邦とその時代―』（2005）

富士見市立難波田城資料館『難波田城のすべて』（2006）

行田市郷土博物館『城絵図と忍城』（2012）

群馬県立歴史博物館『織田信長と上野国』（2018）

行田市郷土博物館『天正十八年―関東の戦国から近世へ―』（2022）

行田市郷土博物館『石田三成と忍城攻め』（2011）

埼玉県立歴史と民俗の博物館『大名と藩―天下泰平の立役者たち―』（2012）

埼玉県立歴史と民俗の博物館『徳川家康―語り継がれる天下人―』（2016）

埼玉県立歴史と民俗の博物館『鉢形城主北条氏邦』（2024）

【自治体史】

『新編埼玉県史』

『群馬県史』

『岩槻市史』

『川越市史』

『行田市史』

『小田原市史』
『館林市史』

【史料集】

- 『戦国遺文』後北条氏編
『戦国遺文』房総編
『戦国遺文』下野編
『戦国遺文』武田氏編
『豊臣秀吉文書集』
和泉清司編『伊奈忠次文書集成』（文獻出版、1981）
大石慎三郎校訂『地方凡例録』（近藤出版社、1969）
大類伸編『日本城郭史料集』（人物往来社、1968）

【報告書】

- 『関東地域天正〱慶長期検地帳目録（稿）』（文部科学省科学研究費 基盤研究（B）「注意近
世移行期検地帳の史科学的的研究とデータベースの構築―大間検地研究の再検討―」、
2022）

【論文】

- 児玉典久「近世前期武蔵幕領における伊奈氏の徴租法と年貢収取―秩父郡太田部村、葛飾
郡下野村・平須賀村の事例―」（『文書館紀要』第5号、1991）
藤井譲治「惣無事令はあれど「惣無事令」はなし」（『史林』93巻3号、2010）
谷口央「徳川五か国総検地と俵高―右高制の観点から―」（『日本史研究』754、202
5）

令和7年度企画展「戦国乱世の終焉と泰平の世ー豊臣軍がやってきた！ヤアヤアヤ!!!ー」
展示資料一覧



No.	文化財指定	文書番号	文書名	年代	西暦	宛所	数量	展示期間	図録資料No.
はじめにー信長と秀吉ー									
1	さいたま市指定	西角井家文書6438	織田信長朱印状(断簡)	[天正3年]11月6日	1575	[]内御門跡(山城国愛宕郡愛宕院)	1	全期	1
2	さいたま市指定	西角井家文書6439	豊臣秀吉朱印状(断簡)	[年月未詳]23日	-	[]内御門跡(山城国愛宕郡愛宕院)	1	全期	2
1. 統一政権と武藏国									
3	埼玉県指定	持田(英)家文書5	北条氏邦朱印状	亥[天正15年]6月10日	1587	荒川多・沢もちだ四郎左衛門外1名	1	後期	3
4	埼玉県指定	持田(英)家文書6	北条氏邦検地書出	戊子[天正16年]8月15日	1588	荒川之郷持田四郎左衛門尉	1	前期	4
5		根岸浩太郎家文書3	北条氏政書状	[天正10年]2月15日	1582	安房守(北条氏邦)	1	全期	5
6		島津家(米沢藩上杉家家中)文書27	上杉景勝控書	天正10年7月日	1582	嶋津淡路守(忠直)	1	全期	6
7		根岸浩太郎家文書1	北条家朱印状	[天正10年]10月25日	1582	猪俣能登守(邦憲)	1	前期	7
8	埼玉県指定	小室家文書5700	北条氏邦書状	[天正11年]5月17日	1583	堀和(堀和康忠)	1	後期	8
9	埼玉県指定	《パネル》持田(英)家文書23	徳川家康書状(写)	[天正11年]11月15日	1583	北条左京大夫(氏政)	1	全期	9
10		井原家(萩藩毛利家家中)文書1	豊臣秀吉朱印状	[天正15年]10月27日	1587	[宛所切断]	1	全期	10
11		根岸浩太郎家文書2	豊臣秀吉書状	[年月未詳]8月5日	-	土田肥前守	1	全期	11
12	埼玉県指定	小室家文書6369-16	《パネル》[太閤秀吉黒船大阪凱征之図]	[江戸時代]	-		1	全期	12
2. 秀吉の小田原攻め									
13	埼玉県指定	道祖土家文書16	北条氏房朱印状	戌[天正14年]6月11日	1586	道祖土図書助(満兼)	1	全期	13
14	埼玉県指定	道祖土家文書17	北条氏房朱印状	亥[天正15年]2月6日	1587	道祖土図書助(満兼)	1	全期	14
15	埼玉県指定	道祖土家文書18	北条氏房朱印状	丁亥[天正15年]8月7日	1587	道祖土図書助(満兼)	1	全期	15
16		金井家文書2	北条氏直感状	[天正18年]正月28日	1590	金井猪助	1	全期	16
17	所沢市指定	北野天神社文書1956	浅野長吉・木村常陸介連署禁制(前欠)	天正18年6月	1590		1	全期	17
18	所沢市指定	北野天神社文書1957	木村常陸介書状	寅[天正18年]7月4日	1590	神主栗原伊賀守	1	全期	18
19	所沢市指定	北野天神社文書1958	前田利家黒印状	天正18年7月5日	1590	北野神主栗原	1	全期	19
20	埼玉県指定	埼玉県立文書館収集文書12(平岩文書1)	織田信雄書状	[天正18年]5月22日	1590	平岩七之助(親吉)	1	全期	20
21	埼玉県指定	埼玉県立文書館収集文書127(平岩文書2)	豊臣秀吉朱印状	[天正18年]5月22日	1590	本田中務少輔(本多忠勝)外2名	1	全期	21
22		(原本:名古屋博物館)	《レプリカ》豊臣秀吉朱印状	[天正18年]5月23日	1590	平岩七助(親吉)	1	全期	-
23	松伏町指定	杉浦家(伊奈家家臣)文書182	伊達政宗書状	[天正18年]5月28日	1590	浅野弾正少弼(長吉)	1	全期	22
24		(原本:山口県立文書館毛利家文庫)	《パネル》小田原陣仕寄陣取図	[年月日未詳]	-		1	全期	-
25	さいたま市指定	浦和宿本陣文書2	豊臣秀吉禁制	天正18年7月日	1590	足立郡ノ内浦和宿	1	全期	23
26	さいたま市指定	浦和宿本陣文書3	浅野長吉禁制	天正18年7月日	1590	浦和市	1	全期	24
3. 家康の関東入部									
27		(原本:国立公文書館)	《パネル》天正十八年三千石以上分限帳	天正18年	1590		1	全期	-
28	埼玉県指定	明星院文書9	徳川家康朱印状	天正19年11月	1591	明星院	1	前期	25
29	埼玉県指定	金子家(旧不動院)文書3	徳川家康朱印状	天正20年正月23日	1592	不動院	1	後期	26
30	さいたま市指定	西角井家文書6084	徳川家康朱印状(断簡)	天正19年11月	1591	武藏国横沢郡国済寺村国済寺	1	前期	27
31	さいたま市指定	西角井家文書6102	徳川家康朱印状(断簡)	天正19年11月	1591	武藏国埼玉郡隣西郡末田村浄音寺	1	後期	28
32	さいたま市指定	武笠(神主)家文書304	武州足立郡柴岡郷内三室村御縄打水帳	天正19年9月朔日	1591	官本馬場	1	全期	29
33	埼玉県指定	持田(英)家文書24~27	武州榛沢郡鉢形領内荒川御縄打水帳	文禄4年10月24日	1595		4	全期	30
34		埼玉県立文書館収集文書4	武州秩父郡大駄之郷坪入御帳	慶長3年5月26日	1598		1	全期	31
35	埼玉県指定	逸見家文書11	武州秩父郡野巻村御地詰帳	慶長3年6月1日	1598		1	全期	32
36		加藤家(旗本)文書1	徳川家康朱印状	天正20年2月朔日	1592	加藤喜助(正之)	1	全期	33
37	埼玉県指定	明星院文書8	伊奈忠次手形	天正19年6月6日	1591	無量寺園伽井坊	1	全期	34
38	松伏町指定	杉浦家(伊奈家家臣)文書26	屋敷坪割書	[慶長5年8月]	1600		1	全期	35
39		市川家(旧万人坊)文書2	東光坊証状	文禄2年正月11日	1593	万仁坊	1	全期	36
40	埼玉県指定	小室家文書4684	《パネル》[関ヶ原合戦両軍配置図](写)	[年月日未詳]	-		1	全期	37
4. 江戸開幕									
41	埼玉県指定	明星院文書10	関東新儀貞言宗法度	慶長18年5月21日	1613	関東新儀貞言諸本寺	1	全期	38
42	埼玉県指定	稲生家文書1290	徳川秀忠朱印状	元和3年5月26日	1617	稲生次郎左衛門(正信)	1	全期	39
43	さいたま市指定	勝田家文書160	高力清長控書	慶長6年霜月1日	1601	岩付市宿 肝煎中	1	全期	40
44	さいたま市指定	浦和宿本陣文書5	御應御用人足定書	寛永10年5月	1633	うらわ名主衆	1	全期	41
45		船川家文書954	上平須賀村年貢割付状	[慶長10年]9月21日	1605	上平須賀村	1	全期	42
46		飯島徳藏氏収集文書260	《パネル》武州河越領高萩村御検地水帳	慶安元年2月29日	1648		1	全期	43
おわりにー史実と偶像ー									
47		東家文書271~274	絵本太閤記初篇	[近世]	-		4	全期	44
48		加藤家文書2116	豊国会趣意書	明治30年6月	1897		1	全期	45
49		川田氏収集文書5394	講談社の絵本「豊臣秀吉」	昭和13年12月1日	1938		1	全期	46
50		古沢家文書2420-1	《パネル》豊臣秀吉『幼年倶楽部』第十卷第九号 附録)	昭和10年9月1日	1935		1	全期	47
51		古沢家文書2420-10	《パネル》豊臣秀吉『少年倶楽部』第二十四巻第一号 附録)	昭和12年1月1日	1937		1	全期	48

No.	文化財指定	文書番号	文書名	年代	西暦	宛所	数量	展示期間	図録資料No.
特集展示 城絵図の世界									
52		新田家文書1	武蔵鉢形城絵図	[天正10年]	1582		1	全期	49
53	埼玉県指定	小室家文書6457	鉢形城縄張り図	[近代]	-		1	全期	50
54	埼玉県指定	小室家文書6459	鉢形城縄張り図	[近代]	-		1	全期	51
55		浅見家文書561	鉢形分玄(分限)帳(写)	[近代]	-		1	全期	52
56		埼玉県航空写真S41 A-7-1	《パネル》昭和41年の鉢形城跡付近(部分)	昭和41年	1966		1	全期	53
57		中村(宏)家文書282	忍城絵図	[近代]	-		1	全期	54
58	埼玉県指定	小室家文書741	武州忍城図(写)	[近代]	-		1	全期	55
59		埼玉県航空写真S41 A-7-14	《パネル》昭和41年の忍城跡付近(部分)	昭和41年	1966		1	全期	56
60		(原本:埼玉県立歴史と民俗の博物館)	《パネル》豊臣秀吉朱印状	[天正18年]6月20日	1590		1	全期	-
61	埼玉県指定	小室家文書747	古城跡近傍図(松山城)(写)	[近代]	-		1	全期	57
62	埼玉県指定	小室家文書740	松山城蹟図(写)	[近代]	-		1	全期	58
63	埼玉県指定	小室家文書736	松山城跡本丸全図(写)	[近代]	-		1	全期	59
64		埼玉県航空写真S41 A-10-12	《パネル》昭和41年の松山城跡付近(部分)	昭和41年	1966		1	全期	60
65	埼玉県指定	小室家文書745	武州河越城地図(写)	[近代]	-		1	全期	61
66	埼玉県指定	小室家文書748	川越城地図(写)	[近代]	-		1	全期	62
67		埼玉県航空写真S41 A-15B-02	《パネル》昭和41年の川越城跡付近(部分)	昭和41年	1966		1	全期	63
68		飯島徳藏氏収集文書764	武州難波田古城図	[近代]	-		1	全期	64
69		埼玉県航空写真S41 A-17B-6	《パネル》昭和41年の難波田城跡付近(部分)	昭和41年	1966		1	全期	65

埼玉県立文書館 令和7年度企画展

戦国乱世の終焉と泰平の世

―豊臣軍がやってきた！ヤアヤアヤア！―

展示図録

発行日…令和8年(2026)1月31日

発行…埼玉県立文書館



埼玉県立文書館